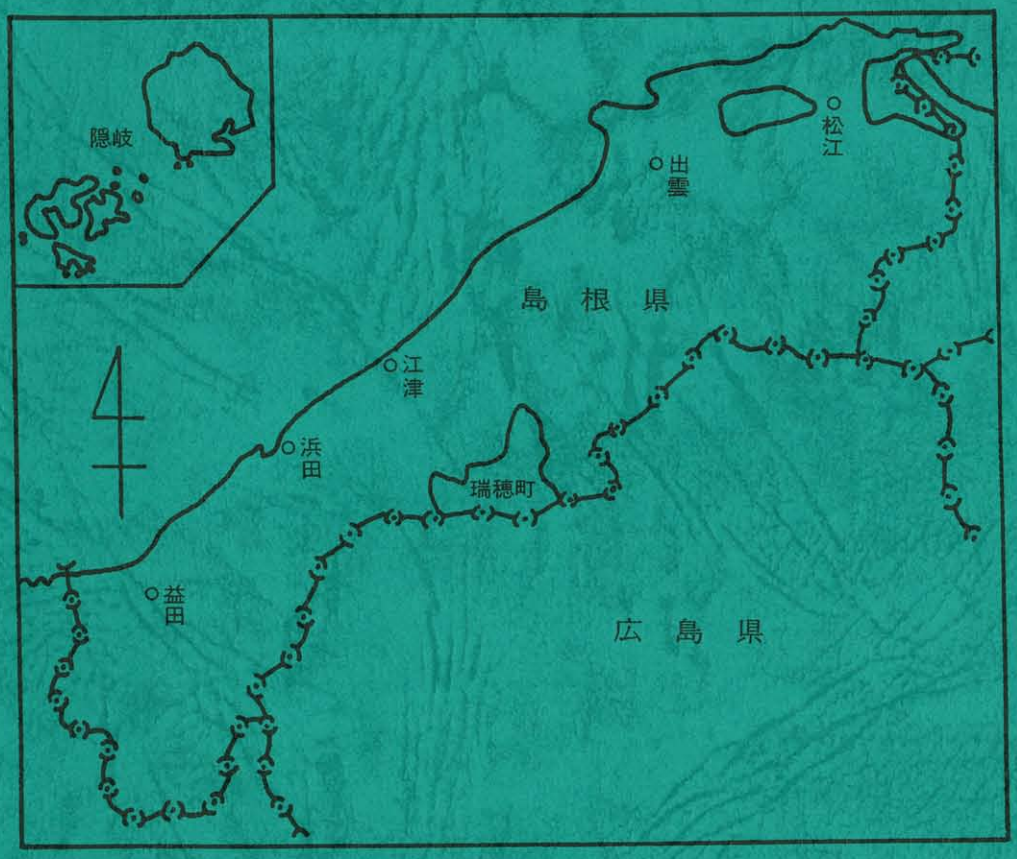
瑞穂町埋蔵文化財調査報告書第23集

島根県邑智郡瑞穂町

町内遺跡発掘調査等報告書



2000年3月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は遺跡の町といわれるように、多くの埋蔵文化財が町内各地に点在しております。これらの貴重な文化財の保存保護、活用のため、分布調査や発掘調査を実施しているところであります。

この度、国及び県の補助を受けて瑞穂町和田地内の遺跡詳細分布調査及び順庵原Ｂ遺跡並びに長尾原遺跡の発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代の住居跡をはじめとして貴重な資料を得ることができました。この報告書は、その調査結果をまとめたものであり、広く各方面でご活用いただければ幸いであります。

なお、調査に当たりご指導いただいた広島大学文学部河瀬正利先生、島根県文化財保護指導委員吉川正氏、島根県教育委員会文化財課をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げる次第であります。

平成12年3月

瑞穂町教育委員会
教育長　三　宅　正　隆

例　　言

1．本書は、平成10年度及び11年度に文化庁及び島根県教育委員会の補助を受け町内遺跡発掘事業として実施した、町内遺跡詳細分布調査及び順庵原遺跡並びに長尾原遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は瑞穂町教育委員会が実施した。

3．本書の執筆及び編集は藤田睦弘が実施した。

4．本書掲載の図面は藤田睦弘が作成し、市山眞由美が浄書した。

5．本書掲載の遺構写真撮影は藤田睦弘が行い、遺物写真撮影は古川健二が行った。

6．本書掲載の25,000分の1地形図は、国土地理院の承認を得て同院発行の地形図を複製した瑞穂町管内図（承認番号平７中複第276号）を使用したものである。

7．本書掲載の地形図に表示したＸ軸、Ｙ軸は国土調査法による第Ⅲ座標系の軸方向である。また、地形測量図、遺構測量図の矢印は真北を示している。

8．本書で使用した遺構及び遺物の略号は次のとおりである。
SI-竪穴住居跡、SK-土坑、SD-溝状遺構、SA-柵列状遺構、P-ピット、ST-石器、J-縄文土器
Y-弥生土器、H-土師器、SU-須恵器

9．調査記録及び出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。

10．地形測量を(株)測地技研に委託した。

島根県邑智郡瑞穂町

町内遺跡発掘調査等報告書

目　　次

序　　頁

Ⅰ．調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ．位置と環境 …… 3

Ⅲ．調査の概要

　1．瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査 …… 6

　2．順庵原Ｂ遺跡発掘調査 …… 11

　3．長尾原遺跡発掘調査 …… 25

Ⅳ．まとめ …… 31

図版目次

図版第１　a．瑞穂町大字和田狼原遠景（南西から）b．同近景（西から）c．出土遺物

図版第２　a．SK-01検出状況（北から）b．同断面土層（南から）c．同完掘状況（同）

図版第３　a．第２試掘区土層（南から）b．第18試掘区土層（同）c．調査の様子

図版第４　a．順庵原Ｂ遺跡遠景(南西から）b．同近景(北から）c．SD-01検出状況(東から）

図版第５　a．SD-01完掘状況（東から）b．SA-01完掘状況（同）c．SI-01検出状況（南東から）

図版第６　a．SI-01土層（北から）b．同遺物出土状況（同）c．中央SK検出状況（北西から）

図版第７　a．中央SK断面土層（北東から）b．同完掘状況（北西から）

　　c．SI-01ａ壁溝検出状況（北から）

図版第８　a．SI-01完掘状況（北から）b．SI-02検出状況（北西から）c．同土層（北から）

図版第９　a．SI-02遺物出土状況（南から）b．同土師器出土状況　c．同完掘状況（東から）

図版第10　a．SI-01出土遺物　b．同　c．同

図版第11　a．SI-01出土遺物　b．同　c．同

図版第12　a．SI-01出土遺物　b．同　c．SI-02出土遺物

図版第13　a．SI-02出土遺物　b．遺構に伴わない出土遺物　c．同

図版第14　a．遺構に伴わない出土遺物　b．同　c．同

図版第15　a．遺構に伴わない出土遺物　b．同　c．同

図版第16　a．平成11年度調査出土遺物　b．平成10年度調査説明会の様子　c．同

図版第17　a．長尾原遺跡遠景（西から）b．同近景（東から）c．SK-01断面土層（北から）

図版第18　a．SK-01完掘状況（北から）b．第４試掘区土層（同）c．第10試掘区土層（同）

図版第19　a．第14試掘区土層（北から）b．第22試掘区土層（同）c．調査の様子

挿図目次

第１図　瑞穂町域と発掘調査箇所位置図 …… 2
第２図　発掘調査箇所周辺の遺跡分布図（１:25,000） …… 5
第３図　出土遺物実測図（１：３） …… 6
第４図　SK-01 実測図（１:60） …… 6
第５図　瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査地形測量図・試掘区配置図 …… ７～８
第６図　瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査試掘区土層図 …… ９～10
第７図　順庵原Ｂ遺跡発掘調査前地形測量図・調査区設定図 …… 13～14
第８図　順庵原Ｂ遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配置図 …… 15
第９図　SD-01・SA-01 実測図（１：60） …… 16
第10図　SI-01 実測図（１：60） …… 17～18
第11図　SI-01 出土遺物実測図（１）（１：３） …… 19
第12図　SI-01 出土遺物実測図（２）（１：３） …… 20
第13図　SI-01 出土遺物実測図（３）（１：３） …… 21
第14図　SI-02 実測図（１：60） …… 21
第15図　SI-02 出土遺物実測図（１：３） …… 21
第16図　遺構に伴わない遺物実測図（１）（１：３） …… 22
第17図　遺構に伴わない遺物実測図（２）（１：３） …… 23
第18図　順庵原１号墓周辺試掘調査出土遺物実測図（１：３） …… 24
第19図　順庵原１号墓周辺試掘調査区地形測量図・試掘区配置図 …… 24
第20図　順庵原１号墓周辺試掘調査試掘区土層図（１：60） …… 24
第21図　SK-01 実測図（１：60） …… 25
第22図　長尾原遺跡地形測量図・試掘区配置図 …… 25
第23図　長尾原遺跡試掘区土層図 …… 26

表目次

第１表　平成10年度瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査出土遺物観察表 …… 27
第２表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（１） …… 27
第３表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（２） …… 28
第４表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（３） …… 29
第５表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（４） …… 30
第６表　平成11年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表 …… 30

Ⅰ．調査に至る経緯

過疎化と高齢化が進む瑞穂町は、若者の定住と雇用促進のため様々な開発事業を実施している。このような状況の中、本町では瑞穂町大字和田狼原地内の開発について検討することとなった。しかし、遺跡の存在が予想されたため、計画策定に先立ち、国及び県の補助を受けて平成10年、11年度の２年間で遺跡範囲確定のための詳細分布調査を実施することとした。

さらに、平成10年度に本町大字上亀谷地内に所在する順庵原Ｂ遺跡内に個人住宅と墓地の建設が、そして、平成11年度には本町大字下亀谷地内に所在する長尾原遺跡内に個人住宅の建設がそれぞれ計画された。瑞穂町教育委員会は島根県教育委員会と協議し、和田地区の詳細分布調査にあわせてそれぞれの遺跡の発掘調査を行うこととした。また、これらに加え順庵原Ｂ遺跡のうち本町大字上亀谷に所在する順庵原１号墓に隣接し、以前から２号墓の存在の可能性が指摘されていた箇所についても、試掘調査を行い遺構の有無について確認した。

調査は次の調査体制で行った。

平成10年度調査体制

調査主体　瑞穂町教育委員会

調 査 員　森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）
　　藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主幹）

調査指導　河瀬正利（広島大学文学部教授）
　　吉川　正（島根県文化財保護指導委員）
　　島根県教育委員会文化財課

事 務 局　三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）
　　河野義則（瑞穂町教育委員会教育課長）
　　野田律子（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）
　　平川　進（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

発掘作業　飯石サツミ、石川義明、石原千枝子、今田徳朗、国信勇之進、久保田孝子、佐藤三郎
　　洲浜軍太郎、高川秀夫、高梨数男、戸津川里美、戸津川孝夫、野田正治、野村重子
　　久光花枝、日高一人、日高武司、日高政雄、古川健二、松川福義、松島利郎
　　三上カメノ、森田ユキエ

整理作業　市山眞由美

平成11年度調査体制

調査主体　瑞穂町教育委員会

調 査 員　森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）
　　藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主幹）

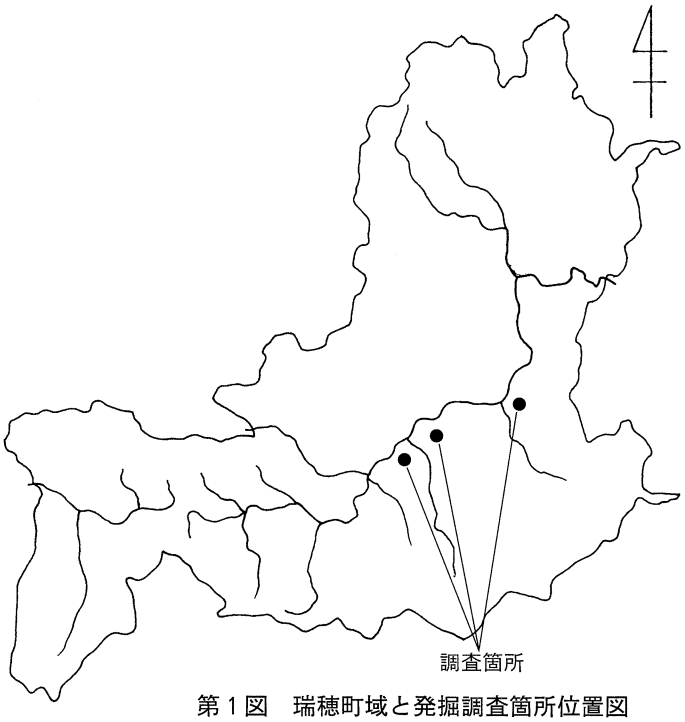
調査指導　河瀬正利（広島大学文学部教授）
　　吉川　正（島根県文化財保護指導委員）
　　島根県教育委員会文化財課

事 務 局　三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）
　　越間弘幸（瑞穂町教育委員会教育課長）
　　日高幸二（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）（10月まで）
　　平川　進（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）
　　石橋　悟（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）（11月から）

発掘作業　飯石サツミ、石川義明、石原千枝子、石原八重美、今田徳朗、漆谷勉、国信勇之進
　　久保田孝子、桑元ミスエ、佐藤三郎、下石見晃於、洲浜軍太郎、高川秀夫、高梨数男
　　土佐房之助、戸田かおり、戸津川孝夫、中桐信枝、久光花枝、日高一人、日高政雄
　　日高房雄、松島利郎、三上カメノ、森田ユキエ

整理作業　市山眞由美

なお、発掘調査を円滑に進めるにために地権者の岡田正氏、洲浜昌利には多大なご配慮とご協力をいただいた。また本書の作成については、桑野直夫氏、木邑恂氏、富永公美氏、山本史朗氏、三上憲昭氏、井坂猛氏、奥田真隆氏（以上瑞穂町文化財保護審議会委員）、牧田公平氏（邑智町教育委員会）、角矢永嗣氏（羽須美村教育委員会）からご教示をいただいた。記して謝意を示したい。



第１図　瑞穂町域と発掘調査箇所位置図

Ⅱ．位置と環境

島根県邑智郡瑞穂町は、島根県のほぼ中央部の邑智郡南部に位置する。南西には中国脊梁山地が連なり、山地を境として広島県と接している。町域のほぼ中央を出羽川が東流し、その出羽川に向かって亀谷川、岩屋川、円ノ板川などの支流が注いでいる。出羽川とその支流の流域には、沖積地や河岸段丘が形成されており、特に瑞穂町田所から出羽にかけてはかなり広い出羽盆地が発達している。今回調査を行った遺跡はいずれも出羽盆地の南側の河岸段丘面に位置しており、特に、順庵原遺跡や長尾原遺跡は弥生時代から歴史時代にわたる山間部ではまれにみる大遺跡として広く知られている。

瑞穂町は550カ所以上の遺跡が確認されている。その半数以上の約300カ所が製鉄関連遺跡であるが、横道遺跡をはじめとして旧石器時代から歴史時代にいたる幅広い時代の遺跡の存在が知られている。

旧石器時代の遺跡は、横道遺跡（高見[1]）、荒槇遺跡（岩屋[2]）及び堀田上遺跡（市木[3]）の３カ所が知られており、約２万年以上前から瑞穂町域に人々が生活しはじめたことを物語っている。

続く縄文時代の遺跡としては、横道遺跡、長尾原遺跡（下亀谷・淀原）、大畑遺跡（大草）及び大宇根遺跡（伏谷）が以前から知られていたが[4]、近年の発掘調査により郷路橋遺跡（市木[5]）、今佐屋山遺跡（市木[6]）、堀田上遺跡[7]、道城遺跡（上亀谷[8]）、野田西遺跡（上亀谷[9]）、順庵原遺跡（上亀谷・下亀谷[10]）、沢陸遺跡（淀原[11]）及び川ノ免遺跡（山田[12]）の存在が明らかになった。

ほとんどの遺跡は出土遺物から早期のものと思われるが、郷路橋遺跡では前期のものとみられるトチの実貯蔵穴や晩期の住居状の遺構が検出されたほか、早期、前期、後期及び晩期の土器が出土している。また、道城遺跡からは後期の土器が１点出土しているのみで、他の時期の土器は出土していない。

弥生時代になると遺跡数も増え、堀田上遺跡、牛塚原遺跡（上亀谷）、野田西遺跡、順庵原遺跡、長尾原遺跡、淀原遺跡（淀原）、沢陸遺跡、川ノ免遺跡及び石堂遺跡（和田）等の遺跡がある。

堀田上遺跡、牛塚原遺跡、順庵原遺跡、及び淀原遺跡からは弥生時代前期の土器が出土しており、山間地域でも弥生時代前期から農耕が始まっていたことを示している。弥生時代後半になると遺跡数も増加し、出土遺物も豊富になってくる。人口も増え、それを支える農耕も町域全域で広く行われていたと考えられる。こうして社会が安定し物質的に豊かになるに従い、弥生社会も階層分化し、共同体の首長墓と考えられる順庵原１号墓（下亀谷）や御華山墳墓（鱒渕）が築造された。このうち順庵原１号墓は、わが国初の四隅突出型墳墓の調査例となった[13]。また、御華山墳墓は長尾原遺跡と出羽川を挟んだ対岸の段丘上に位置している[14]。

古墳時代の遺跡のうち、集落跡としては狼原遺跡（和田）、宇山遺跡（上原）、川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡、今佐屋山遺跡などがある。このうち、1968年の長尾原遺跡の調査では竪穴住居跡や土坑墓が検出され、さらに鉄に関する遺構が発見された[15]。また、1989年に調査された今佐屋山遺跡からも竪穴住居跡と製鉄遺跡がみつかっており[16]、製鉄・鍛冶が古墳時代後半には始まっていたことを示している。

古墳は20カ所以上確認されているが、その大部分は終末期に築造された小円墳と横穴である。前半期の古墳と思われるものには段ノ原古墳（高見）、淀田古墳群（三日市）及び御華山古墳群（鱒渕）がある。

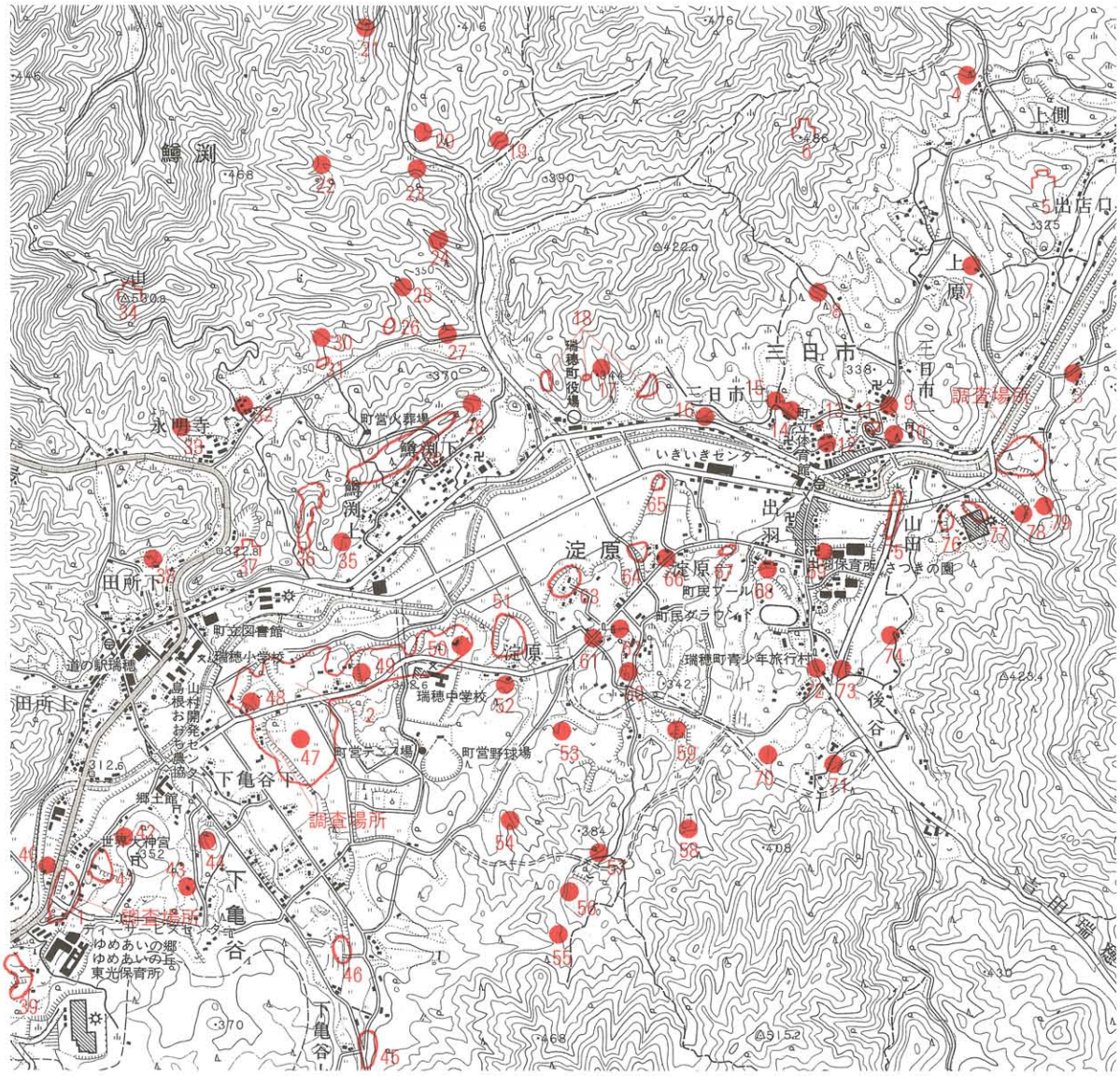
奈良時代の遺跡のうち、発掘調査により住居跡が検出されたものに川ノ免遺跡[17]、野田西遺跡[18]及び大金谷遺跡[19]がある。検出した住居跡のほとんどに煙道を備えたつくり付けのカマドが設けられている。このほか、古墳時代から奈良、平安時代にわたる須恵器の窯跡も数多く確認されている。久永古窯跡群はその代表的な遺跡で、島根県内有数の須恵器産地であったといえる。

中近世になると、山城や砦跡、そして多くの製鉄遺跡が確認されている。なかでも鎌倉時代に富永（出羽）氏が築城したと伝えられ、出羽盆地を北から見おろす二ツ山城は規模、構造とも島根県内では屈指の遺跡であり、瑞穂町のシンボルとして広く町民に知られている。

また、中近世の製鉄遺跡は300カ所近くが確認され、製鉄が盛んに行われていたことをあらわしている。

註

（1）河瀬正利『横道遺跡－詳細分布調査－』瑞穂町教育委員会 1983年
（2）吉川　正「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集　瑞穂町教育委員会 1976年
（3）島根県教育委員会『主要地方道浜田八重可部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』　1991年3月
（4）（2）に同じ
（5）島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』 1991年3月
（6）島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』 1992年3月
（7）（3）に同じ
（8）瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概要－』 1995年3月
（9）（8）に同じ
(10) 瑞穂町教育委員会『順庵原遺跡発掘調査概要書』 1995年9月
(11) 瑞穂町教育委員会『沢陸遺跡発掘調査報告書』 1998年10月
(12) 瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』 1996年3月
(13) 東森市良『四隅突出型墳丘墓』ニューサイエンス社 1985年
(14) 瑞穂町教育委員会『御華山彌生式墳墓調査概要』 1969年2月
(15) 島根県川本農林土木事務所『農面道新設に伴う長尾原遺跡及長尾原一号墳調査概要』 1969年2月
(16)（6）に同じ
(17)（12）に同じ
(18)（8）に同じ
(19)（8）に同じ



第２図　発掘調査箇所周辺の遺跡分布図（１：25,000）

1．順庵原Ｂ遺跡
2．長尾原遺跡
3．大番原瓦窯跡
4．鉄穴原鈩跡
5．信友城跡
6．毛城跡
7．宇山Ｂ遺跡
8．榎谷遺跡
9．大畑瓦窯跡
10．七神社社務所裏石棺墓群
11．宮ヶ谷遺跡
12．阿弥陀堂跡
13．崇聖寺原遺跡
14．蛇池遺跡
15．大西瓦窯跡
16．才の神瓦窯跡
17．石井迫窯跡
18．淀田古墳群
19．上管窯跡
20．定入遺跡
21．ロクロ谷遺跡
22．桜ヶ谷窯跡
23．定入窯跡
24．カニケ迫遺跡
25．馬場ヶ谷窯跡
26．馬場ヶ谷Ｂ遺跡
27．馬場ヶ谷Ａ遺跡
28．原下遺跡
29．鱒淵古墳群
30．清水ヶ尻窯跡
31．清水ヶ尻遺跡
32．永明寺跡
33．鈩迫鈩跡
34．二ツ山城跡
35．竹前遺跡
36．御華山古墳群
37．副城跡
38．増屋横穴
39．出張遺跡
40．順庵原墳墓群
41．順庵原Ａ遺跡
42．地蔵院跡
43．牛市原遺跡
44．亀谷八幡宮跡
45．杉谷古墳群跡
46．杉谷遺跡
47．長尾原Ｂ古墳
48．長尾原Ａ古墳群
49．長尾原鈩跡
50．道城遺跡
51．若林遺跡
52．板屋裏瓦窯跡
53．江迫横穴群
54．江迫窯跡
55．後鉄穴窯跡
56．淀原大堤鈩跡
57．大堤下鈩跡
58．滝ヶ谷窯跡
59．沢陸遺跡
60．秋広窯跡
61．前曽根瓦窯跡
62．淀原古墳
63．淀原遺跡
64．オセド遺跡
65．小絵堂遺跡
66．高見屋横瓦窯跡
67．福音寺跡
68．旅行村グランド窯跡
69．出羽代官所跡
70．光明坊１号間歩
71．光明坊２号間歩
72．稲荷神社跡
73．鉄穴内遺跡
74．小谷遺跡
75．慶光坊遺跡
76．川ノ免遺跡
77．滑遺跡
78．狼原上遺跡
79．狼原鈩跡

Ⅲ．調査の概要

1．瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査

1．調査区の概要

今回の詳細分布調査は、瑞穂町大字和田地内に所在する通称狼原において実施した。狼原は出羽盆地東端部、出羽川南側の河岸段丘上に位置している。周辺の河岸段丘状には川ノ免遺跡や滑遺跡など集落跡と考えられる遺跡が確認されている。

調査区内の地形は西側が河岸段丘上の平坦面となっており、中央部から東側にかけて徐々に標高が高くなり、東南部の尾根に続いている。

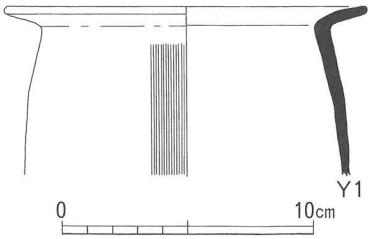
調査は平成10年度から11年度にかけて実施し、45カ所の試掘区を設定して実施した。以下その概要を報告する。

2．平成10年度調査

道路西側を中心に11カ所の試掘区を設定した。調査区の大部分はかつて植林用苗木の苗圃として使用されており、その造成工事によりほとんどの場所で旧地形が失われていた。旧地形が残っていたのは、道路西側の平坦面の一部のみであった。第６試掘区から弥生時代中期の土器が出土したが、それに関連する遺構の確認はできなかった。

出土遺物（第３図、図版第１ｃ）

Y1は甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸みをおびている。口径は14.4cm。内外面とも口縁部にはナデ調整が施されている。体部は外面にハケ目、内面にナデ調整が施されている。焼成は良好で、胎土には2mm程度の砂粒を含んでいる。色調はにぶい褐色を呈している。時期は、口縁部の形状から、弥生時代中期のものと思われる。



第３図　出土遺物実測図（１：３）

3．平成11年度調査

本年度は中央部から東側の尾根上を中心に新たに34カ所の試掘区を設定した。本年度の調査では新たに調査区北側隅のごく一部にも旧地形が残っていることを確認したが、大部分の試掘区は大規模な苗圃の造成工事により旧地形が失われていた。

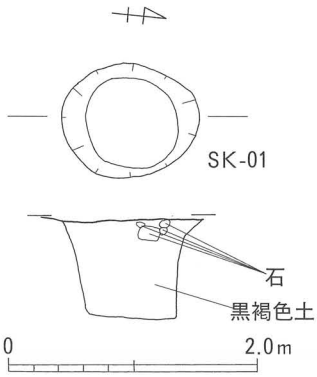
旧地形が残っている部分の試掘区からは、弥生土器をはじめとして数点の土器片が出土した。遺構としては、第６試掘区で土坑を検出した。

遺　構

ａ．土　坑（第４図、図版第２ａ～ｃ）

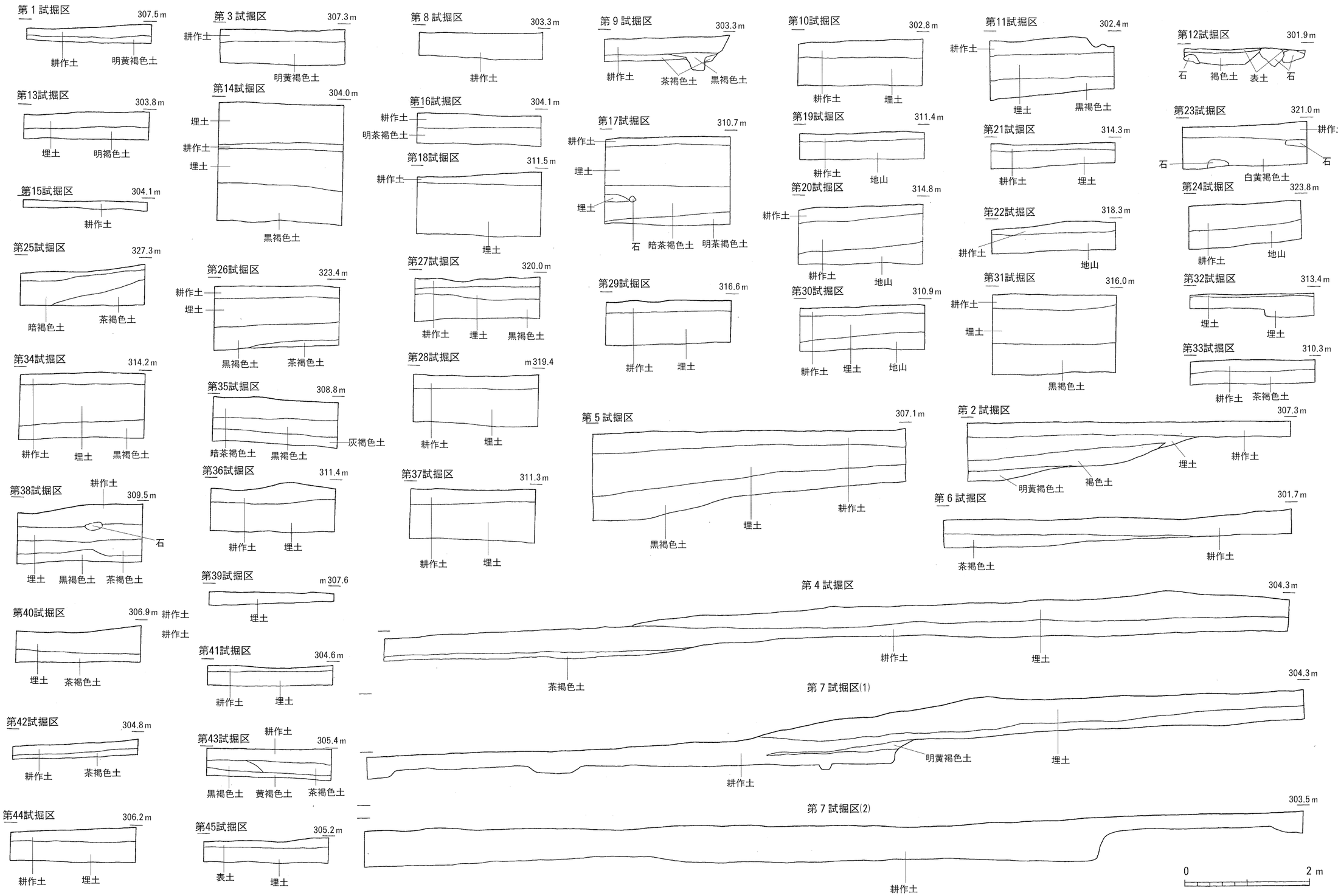
SK-01

第６試掘区で検出した土坑である。径1.1m、深さ0.74mであった。壁が非常に固くつくられている。かつて肥料とするために、糞尿を溜める目的で使われたものと思われる。



第４図　ＳＫ－０１実測図（１:60）

第５図　瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査地形測量図・試掘区配置図



第 6 図　瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査試掘区土層図

2．順庵原Ｂ遺跡発掘調査

1．調査区の概要

順庵原Ｂ遺跡は、出羽盆地中央やや西側の出羽川南側の河岸段丘上の平坦面に位置している。また、四隅突出型墳丘墓である順庵原１号墓が隣接している。

遺跡の大部分は開墾により水田又は畑地となっているが、畑地については旧地形の尾根や谷に応じた若干の起伏が見られる。平成10年度調査については旧地形の尾根と思われる部分のうち住宅及び墓地の建設予定地のすべてについて調査区を設定した。平成11年度については四隅突出型墳丘墓の存在の可能性がある尾根先端部の平坦面に試掘区を設定した。

2．平成10年度調査

ｉ）住宅建設予定地の調査

住宅建設予定地すべてについて調査を行った。今回の調査は住宅建て替えに伴うもので、古い家屋の取り壊し後、床下の攪乱土を重機で取り除いた。攪乱土除去後の状況を観察すると、南隅から北隅にかけて谷状の地形となっていた。

調査区内で溝状遺構と柵列状遺構を検出した。

遺構

ａ．溝状遺構

SD-01（第９図、図版第４ｃ・５ａ）

調査区北側で、長さ6.7m、幅0.4m、深さ約10cmの溝状遺構を検出した。地山面からやや高いところで検出しており、畑作に伴うものである可能性が高い。

ｂ．柵列状遺構

SA-01（第９図、図版第５ｂ）

調査区南側で、柵列状の遺構を確認した。約1.8m～3.6mの間隔で５個のピットが並んでいた。ピットの間隔が正確に1.8mとなっていることを考えると、かつての家屋に伴うものである可能性が高い。

ii）墓地建設予定地の調査

墓地建設予定地のすべてについて調査を行った。また、調査によって検出された遺構の範囲を確認するため、地権者の了解を得て一部、建設予定地外に調査範囲を拡大した。

調査の結果弥生時代の住居跡と奈良時代の住居跡を検出した。なお、これらの遺構は地権者の好意により、調査後に埋め戻しを行い保存することとした。

遺構

ａ．竪穴住居跡

SI-01（第10図、図版第５ｃ～８ｂ）

住居跡の一部の調査であったため、全体の形状や規模は不明であるが、調査した部分から推測すると、直径8.8m～9.0mのやや形の崩れた円形の竪穴住居跡だったと思われる。

柱穴を結ぶと、内側と外側に２本の線が引かれ、さらに内側の線と外側の線の間、中央の土坑から約1.8m～2.0mのところにかつての壁の跡と思われる溝があり、この住居跡は少なくても１度立

て替えられていると思われる。便宜上、内側の柱跡を使った住居跡をSI-01a、外側の柱穴を使った住居跡をSI-01bとする。この二つの住居跡の新旧関係は、遺構内に堆積していた土が乱れていなかったことから、外側の柱穴を使った住居跡の方が新しいと思われる。従って、最初に直径約3.6m～4.0mのSI-01aがあり、それを壊して直径8.8～9.0mのSI-01bを建てたものと思われる。

遺構内堆積土からは、弥生時代中期から後期までの土器が多く出土した。床面から出土した土器の多くが後期前半のものであることを考えると、SI-01bは弥生時代後期前半のものと思われる。

出土遺物（第11～13図、図版第10～12b）

出土遺物の大多数は弥生時代後期の壷又は甕であるが、後世の撹乱による流れ込みと思われる弥生時代中期の土器と土師器が出土した。

弥生時代中期の土器

Ｙ１は弥生時代中期の壷又は甕の体部である。外面に斜行刺突文、櫛歯状工具による施文、棒状工具による刺突文が施されている。内面はナデの後、部分的に磨き調整が施されている。Ｙ２は高坏の口縁部と思われる。

弥生時代後期の土器

壷又は甕

弥生時代後期の壷又は甕は口縁部の形状や施文によって４種類に分類される。

Ⅰ類（Ｙ３～Ｙ９）

口縁端部がほとんど拡張しないもの。口縁部に沈線又は凹線が施されているものもある。

Ⅱ類（Ｙ１０～Ｙ１８）

口縁端部が拡張し、内傾するもの。体部に刺突文や凹線文が施されているものがある。

Ⅲ類（Ｙ１９～Ｙ２７）

Ⅱ類からさらに口縁部が拡張するもの。口縁端部は、直立ないしやや外傾する。口縁部に沈線又は凹線が施されている。体部には刺突文が施されているものがある。

Ⅳ類（Ｙ２８～Ｙ３４）

拡張した口縁部に櫛歯状工具による施文があるもの。

底部（Ｙ３５～Ｙ４１）

いずれも壷又は甕の底部と思われる。底面がほぼ平らなもの（Ｙ３７，３８，４２）、やや凹んでいるもの（Ｙ３８，４０）、かなり凹んでいるもの（Ｙ３９，４０）に分類される。

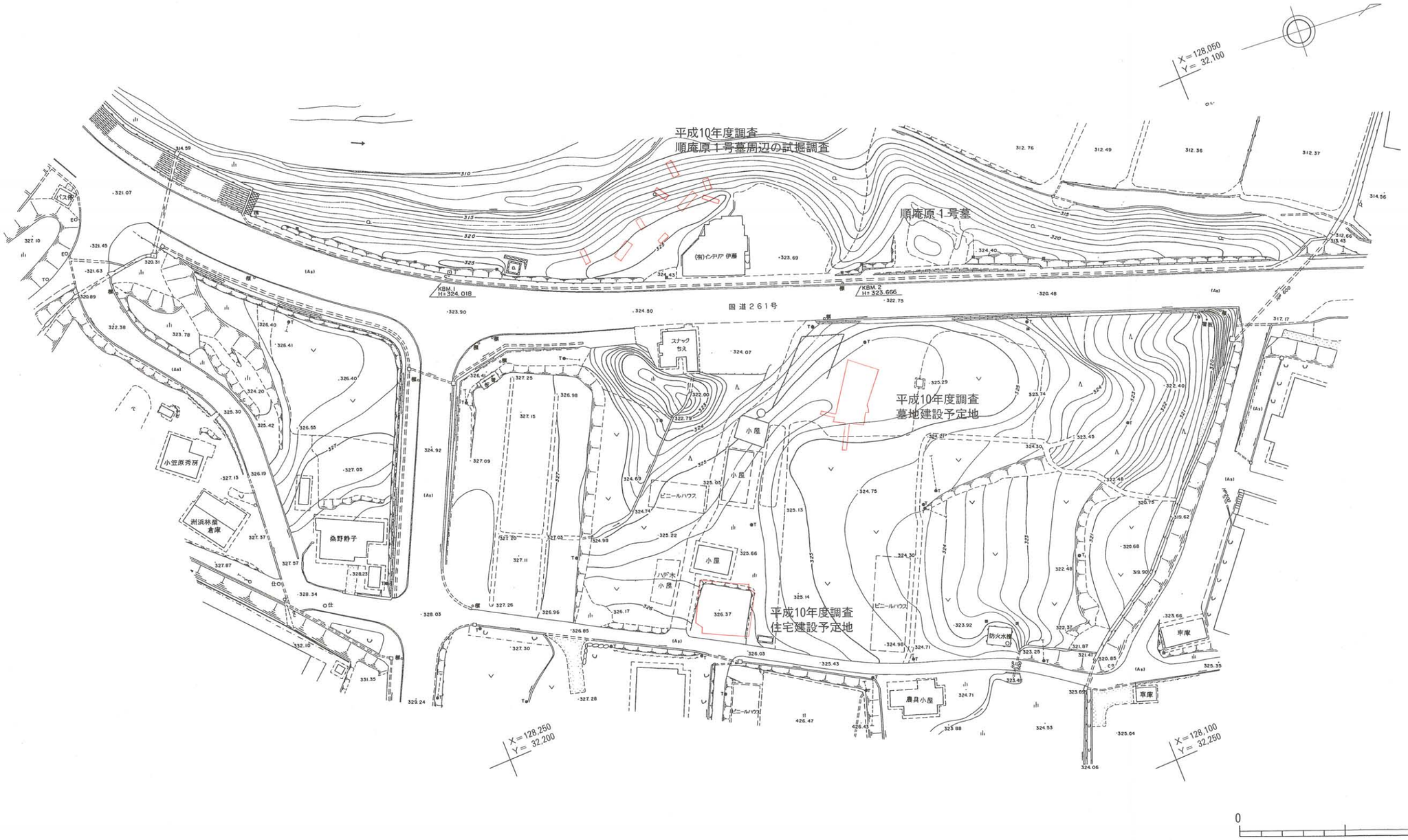
蓋（Ｙ４２）

Ｙ４２は壷の蓋である。時期は同時に出土した遺物や胎土の特徴から判断して、弥生時代後期と考えた。しかし、弥生時代前期から中期にかけても類似した形状の蓋があり、時代がさかのぼる可能性も否定できない。

器種不明（Ｙ４３）

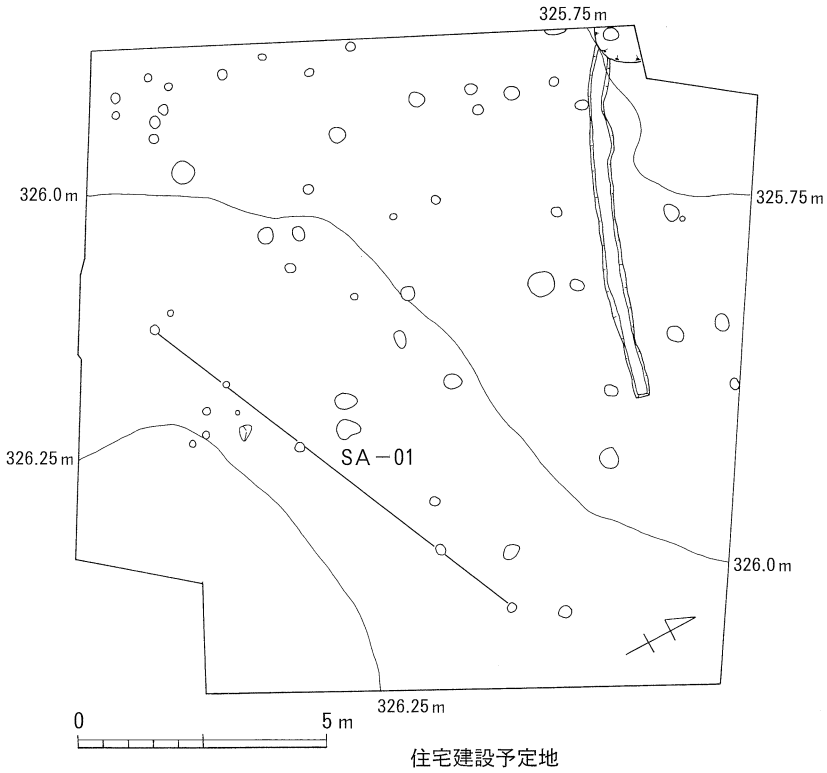
Ｙ４３は残存部分が口縁部とも底部とも考えられる形状であるため、器種不明とした。粘土を指でつまんで整形しただけの雑な作りで、指頭圧痕が認められる。

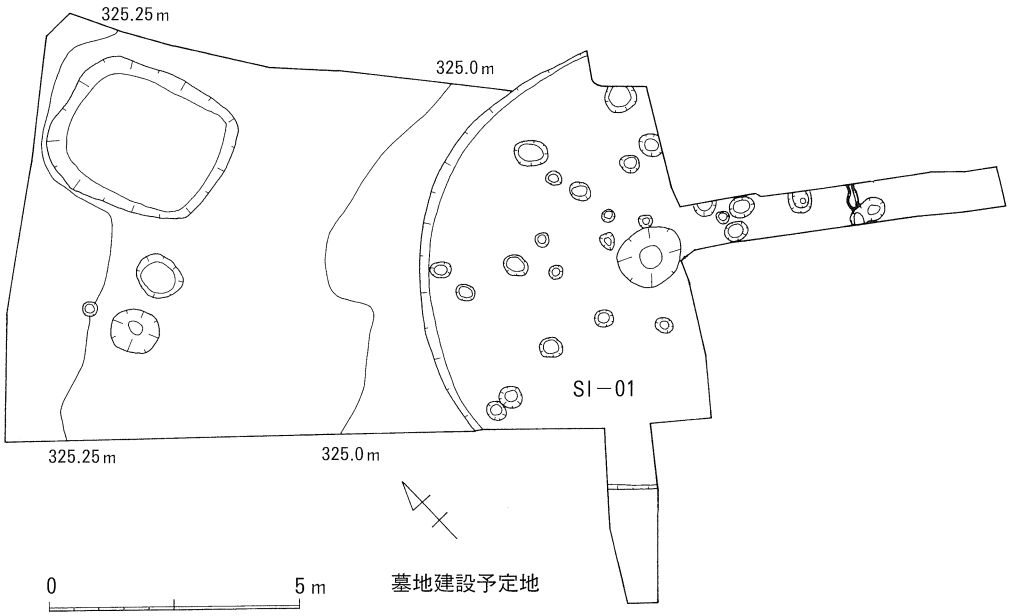
S=1:500



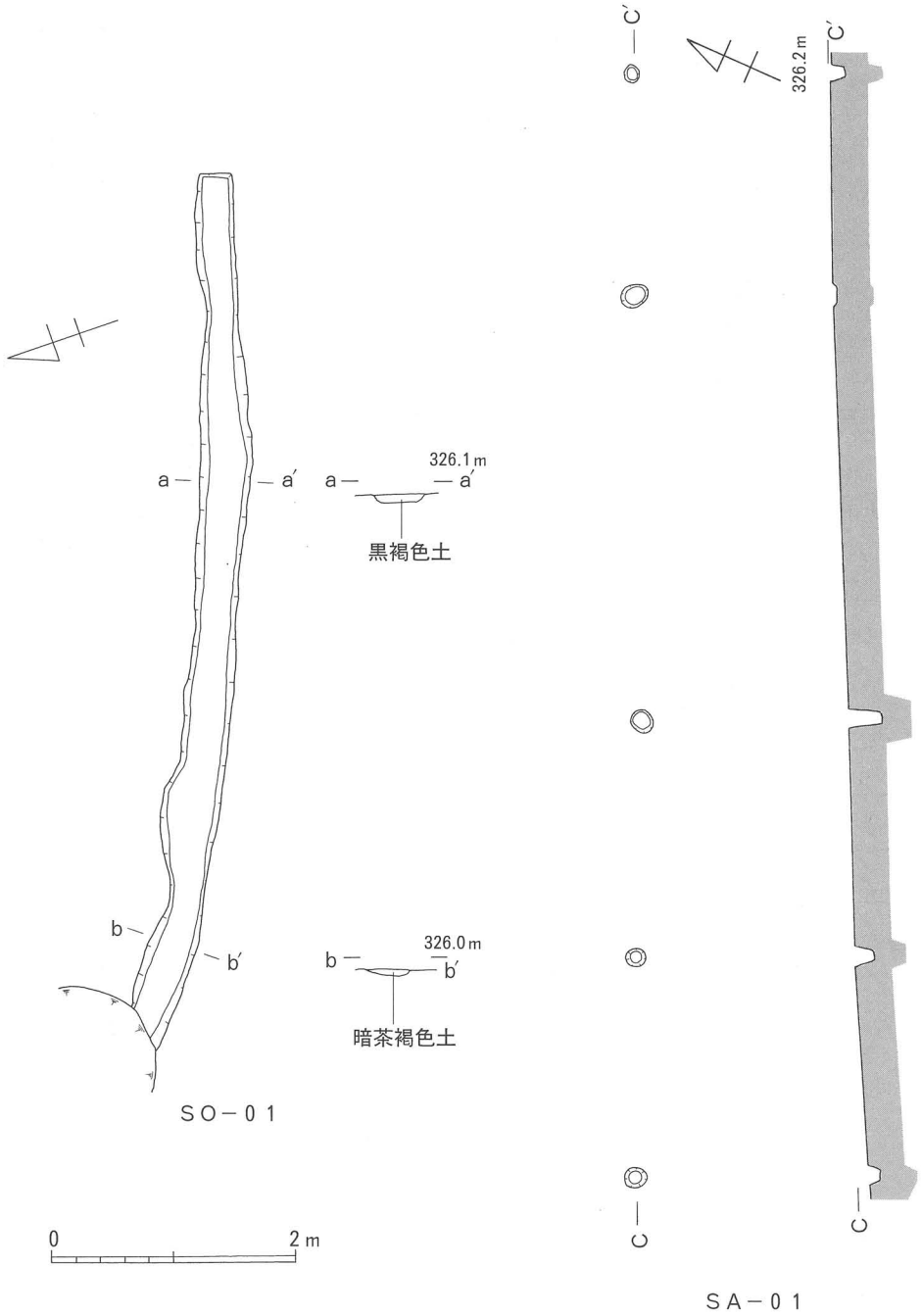
順庵原遺跡地形測量図(調査前)

第７図　順庵原Ｂ遺跡発掘調査前地形測量図・調査区設定図

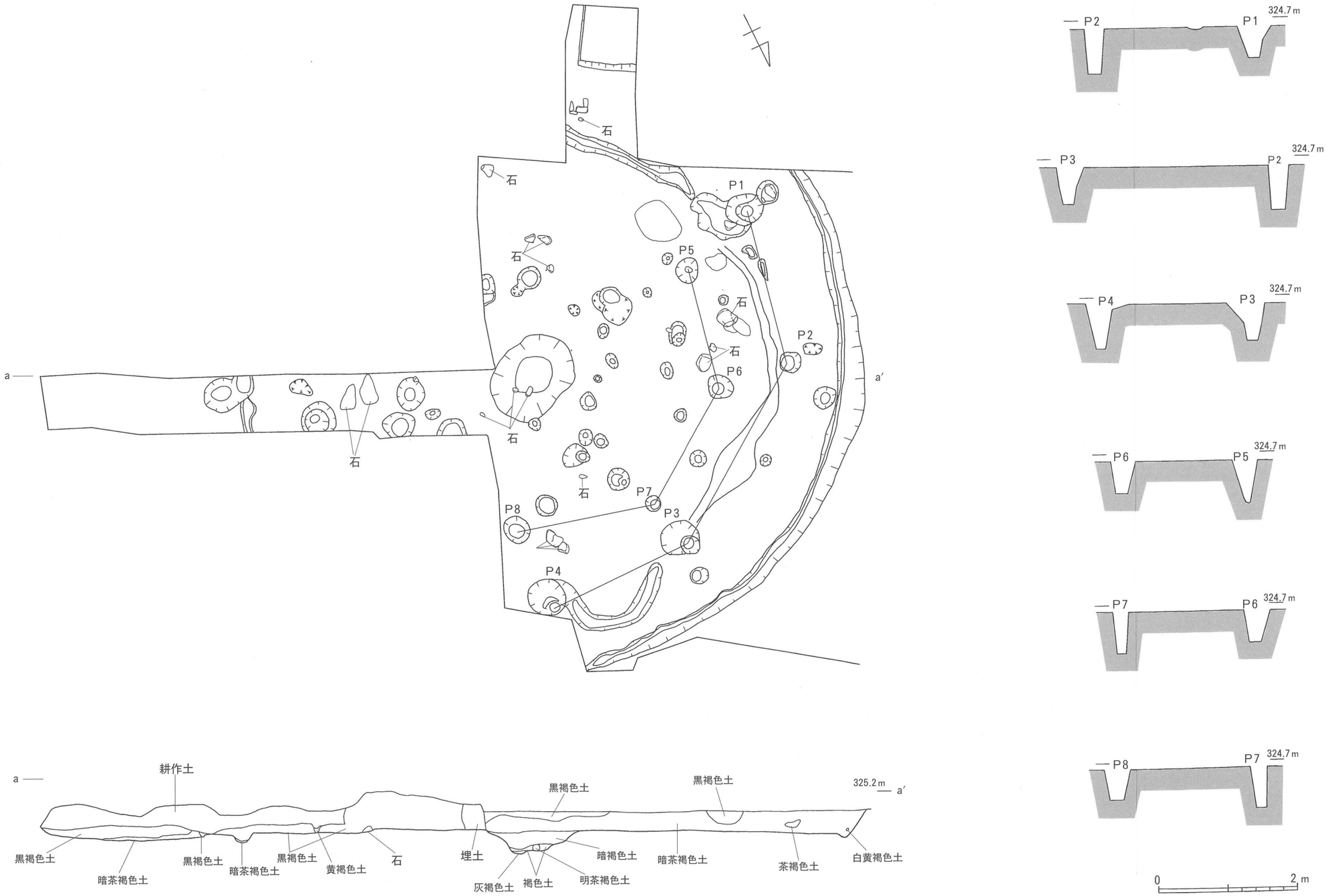




第８図　順庵原Ｂ遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配置図



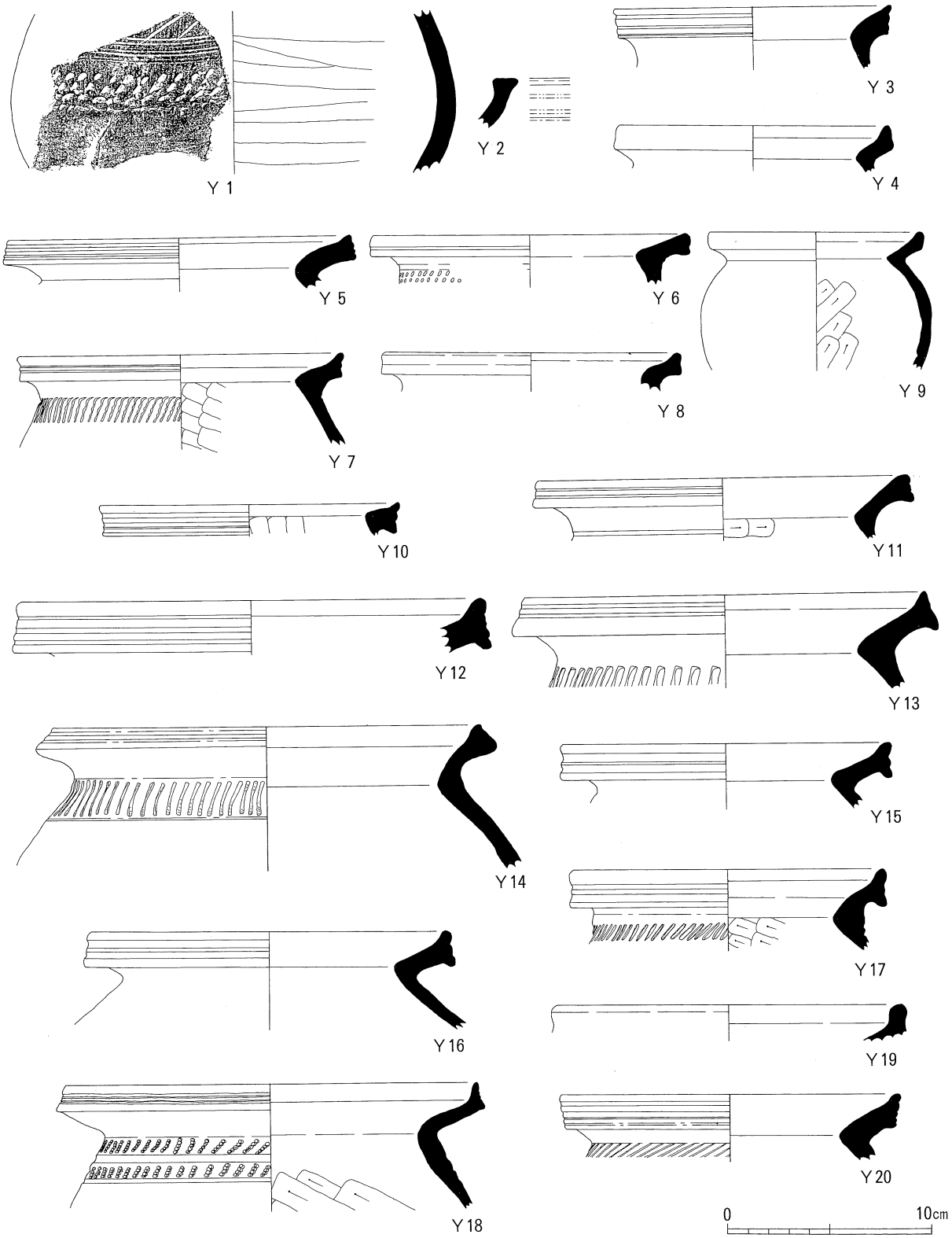
第9図　SD－01・SA－01実測図（1:60）



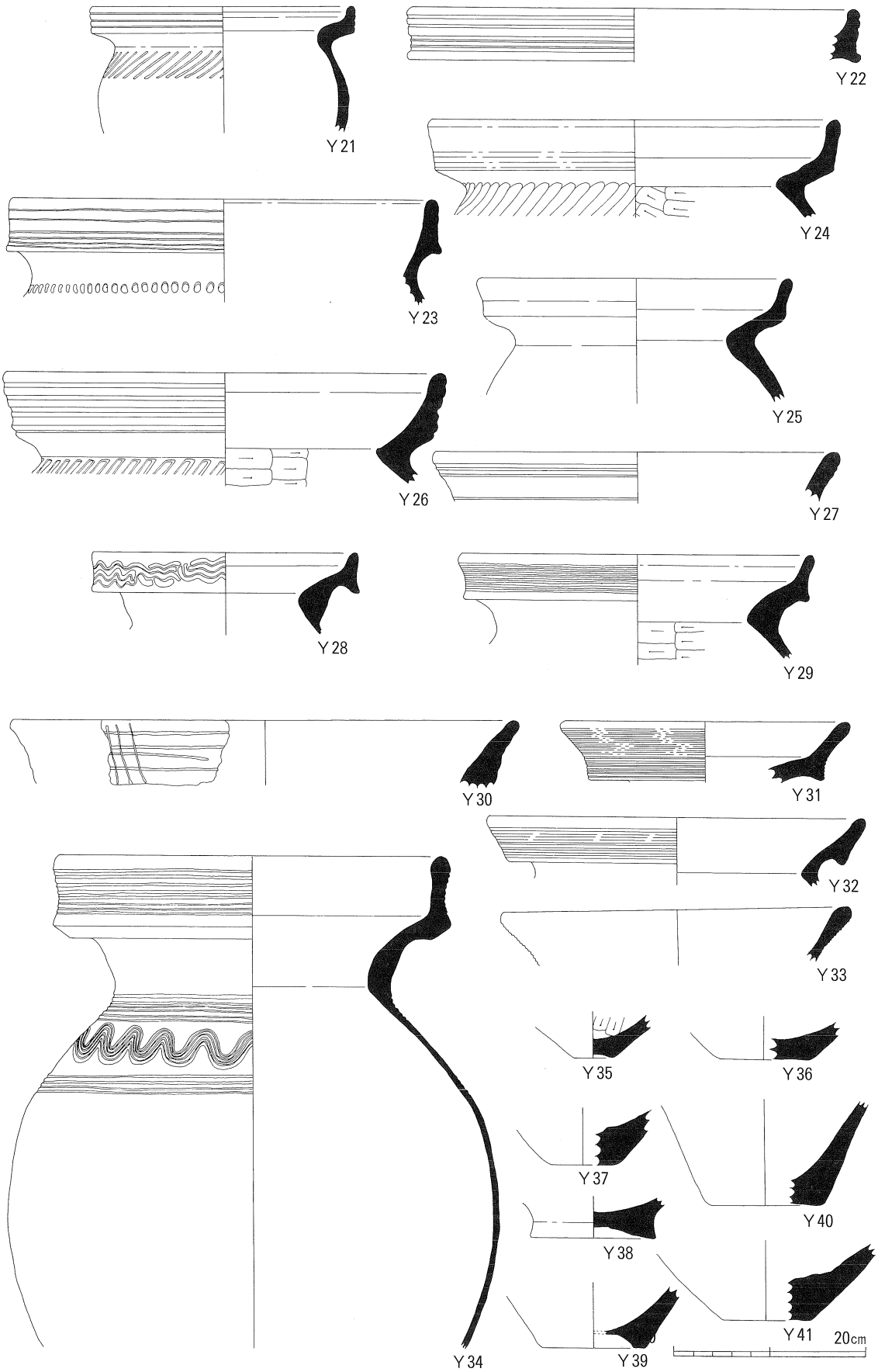
第10図　ＳＩ－０１実測図（1：６０）

土師器

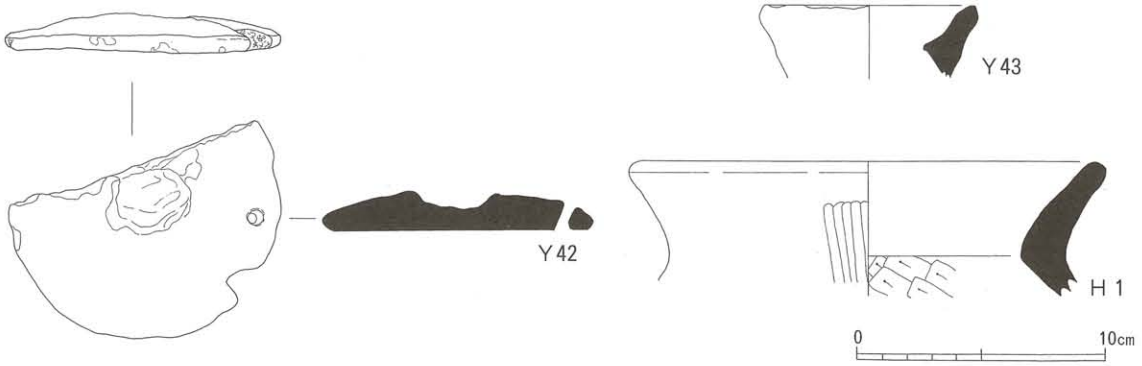
Ｈ１は甕の口縁部である。口縁部は「く」字状を呈している。外面にヘラ磨き、内面体部にヘラ削りが施されている。



第11図　ＳＩ－０１出土遺物実測図（１）（１：３）



第12図　ＳＩ－０１出土遺物実測図（２）（１：３）



第13図　ＳＩ－０１出土遺物実測図（３）（１：３）

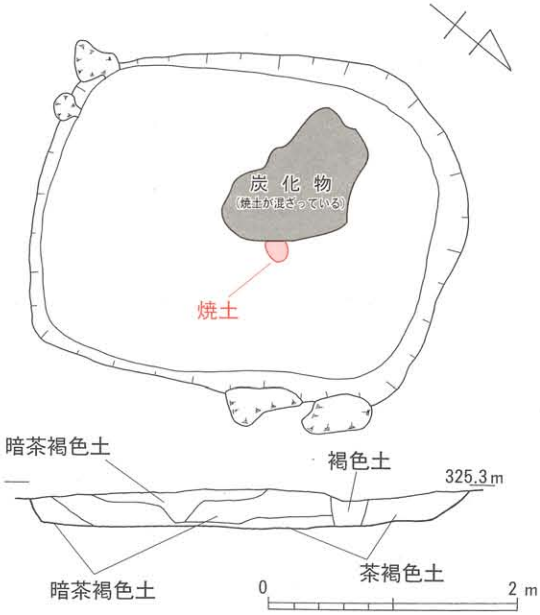
SI-02（第14図、図版第８ｂ～９）

形状は約3.5m×2.5mのやや歪んだ長方形を呈している。柱穴等は床面に確認できなかった。一部床土が赤く変色し、その周辺から炭片が出土している。

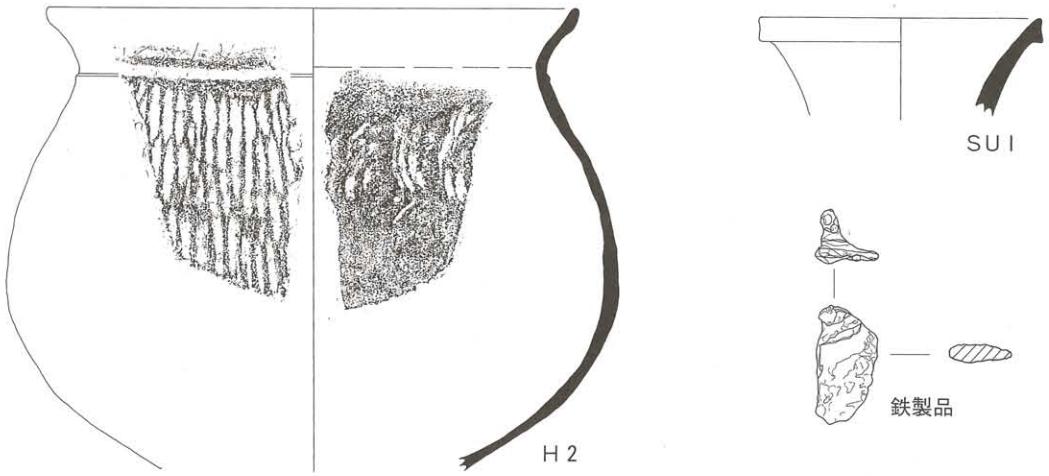
床面から土師器の甕が出土しており、その形状から時期は奈良時代と思われる。

出土遺物（第15図、図版第12ｃ・13ａ）

H1 は床面から出土した甕である。口径は21.3cmあり、口縁部は「く」字状を呈している。体部外面に縦方向のタタキが施され、内面上部には、不鮮明な同心円状のタタキ目がみられる。焼成は良好で、胎土は密、色調は浅黄橙色ないし黄橙色を呈する。SU1は壷又は甕の口縁部である。口径は11.2cm、焼成は良好で、胎土は密、色調は緑黒を呈している。土器の他に、性格不明の鉄製品が出土した。



第14図　ＳＩ－０２実測図（１：６０）



第15図　ＳＩ－０２出土遺物実測図（１：３）

遺構に伴わない遺物（第16・17図、図版第13b～15ｃ）

遺構に伴わない遺物のほとんどは弥生時代後期の土器である。壷又は甕の口縁部が大多数であるが、土器の底部や鉢も出土している。

壷又は甕の口縁部

壷又は甕の口縁部は、形状や施文によって５種類に分類される。

Ⅰ類（Ｙ４４～４８）

口縁部がほとんど拡張しないもの。口縁部に沈線又は凹線文が施されている。

Ⅱ類（Ｙ４９～５４）

口縁端部が拡張し、内傾するもの。体部に刺突文や凹線文が施されているものがある。

Ⅲ類（Ｙ５５～６１）

Ⅱ類からさらに口縁部が拡張するもの。口縁端部は直立ないしやや外傾する。口縁部には沈線又は凹線文が施されている。体部に刺突文や櫛歯状工具による施文が施されているものがある。

Ⅳ類（Ｙ６２～６６）

拡張した口縁部に櫛歯状工具による施文があるもの。

Ⅴ類（Ｙ６７～６８）

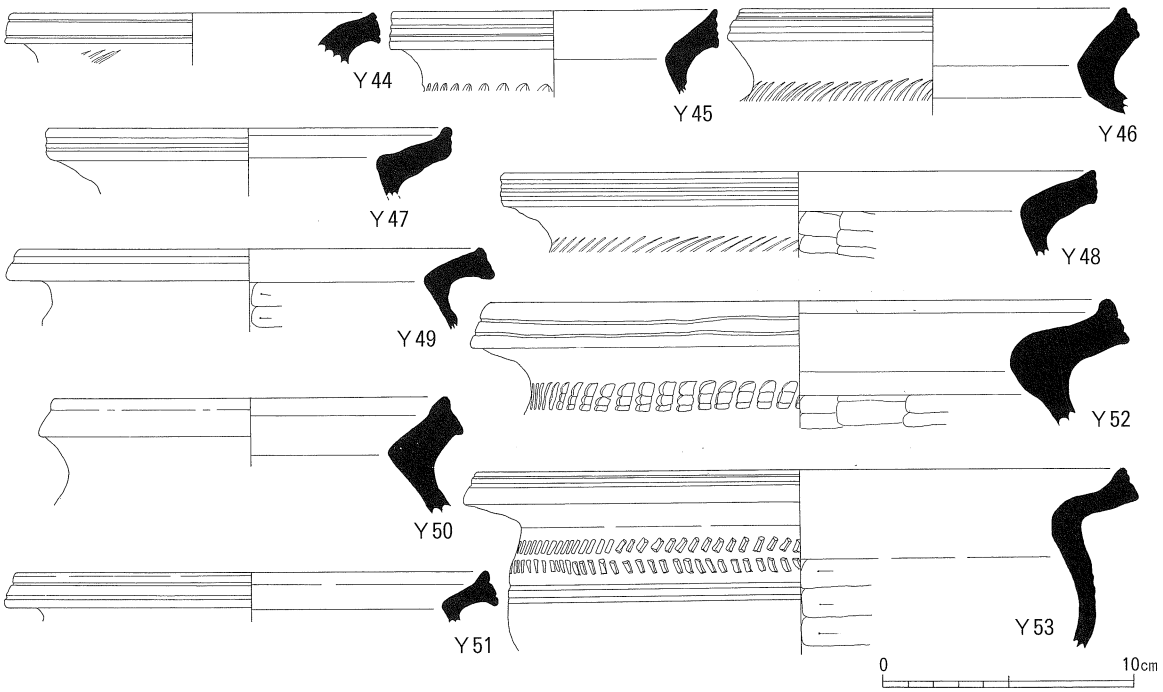
口縁部が大きく拡張し、無文のもの。

底部（Ｙ６９～７５）

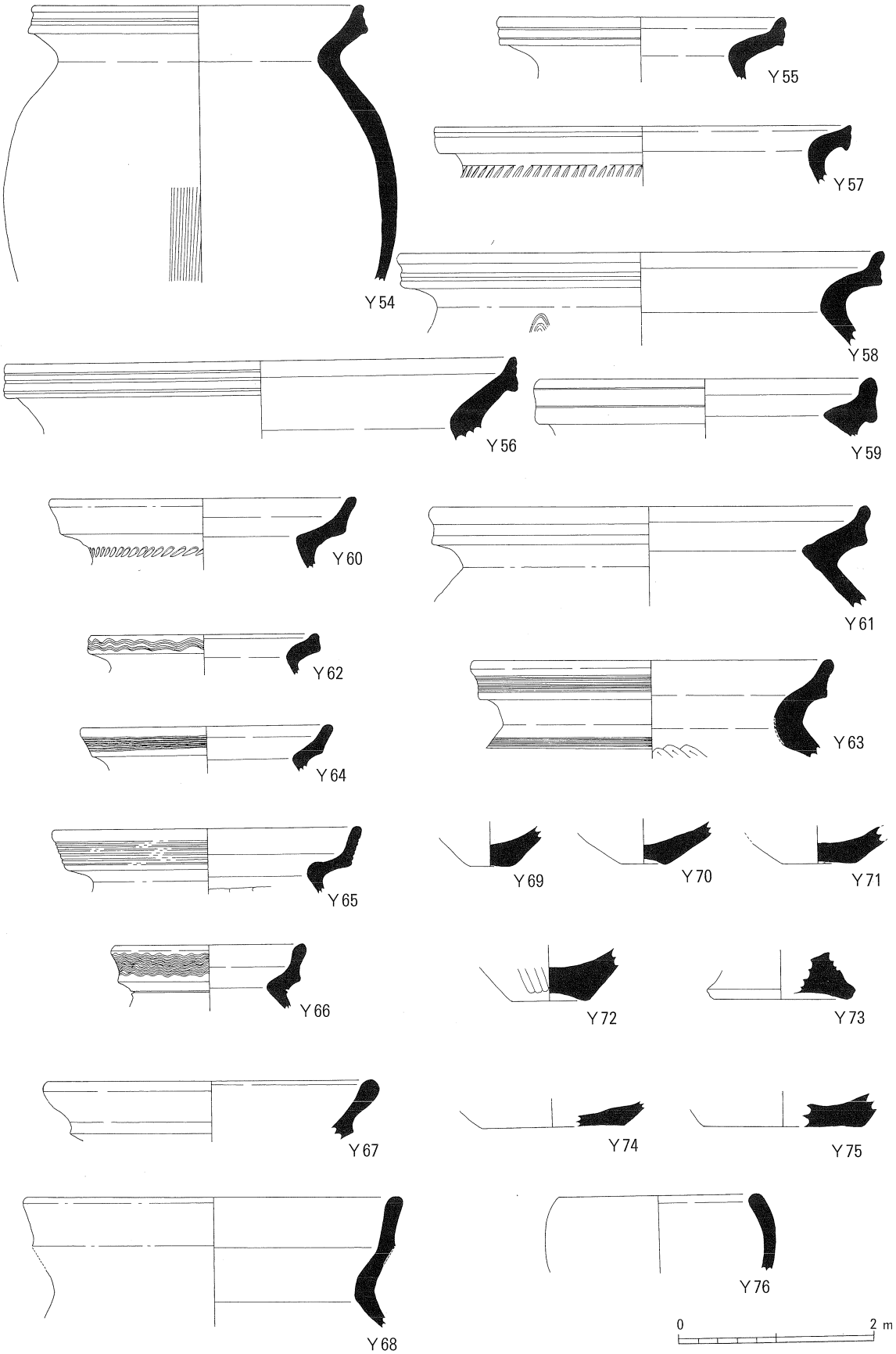
底が凹んでいるもの（Ｙ６９～７３）、底が平らなもの（Ｙ７４・７５）の２種類に分類される。

鉢（Ｙ７６）

口径10.4cmの鉢である。焼成は良好で、1mm程度の砂粒を含んでいる。色調は外面が赤灰、内面が橙を呈している。



第16図　遺構に伴わない遺物実測図（１）（1：3）



第17図　遺構に伴わない遺物実測図（2）（1：3）

3．平成11年度調査

順庵原１号墓周辺の試掘調査

順庵原１号墓の西約30mにある尾根上に９カ所の試掘区を設定した。第５試掘区から縄文土器片と弥生土器片が出土したが、遺構の確認はできなかった。

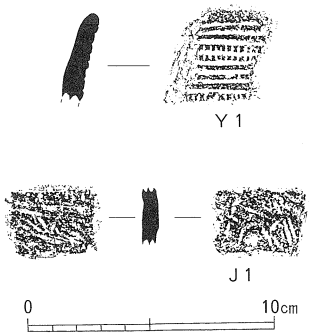
出土遺物（第18図、図版第16ａ）

縄文土器

J1は縄文時代早期の土器で、両面に条痕文が施されている。

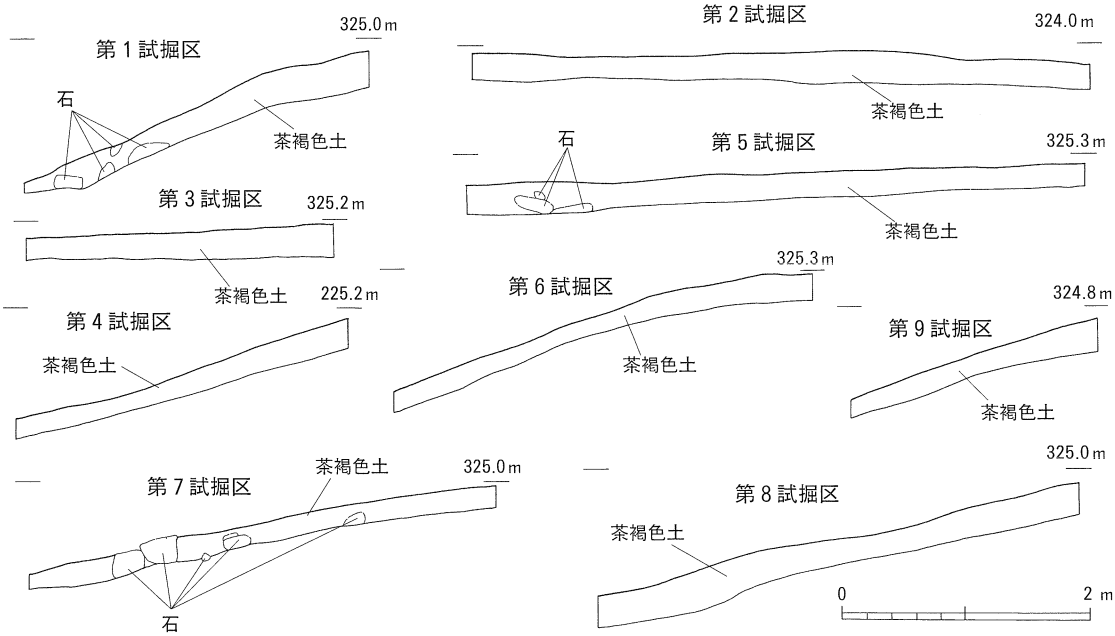
弥生土器

Y1は弥生時代中期の長頸壷の口縁部と思われる。全面に凹線又は沈線文があり、その間にヘラ状工具による刺突文が施されている。



第18図　順庵原１号墓周辺試掘調査出土遺物実測図（１：３）

第19図　順庵原１号墓周辺試掘調査区地形測量図・試掘区配置図



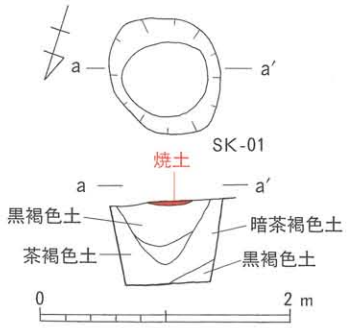
第20図　順庵原１号墓周辺試掘調査試掘区土層図（１：６０）

3．長尾原遺跡発掘調査

1．調査区の概要

長尾原遺跡は出羽盆地中央部、出羽川南側の河岸段丘上に位置している。今回調査を行ったのは、遺跡西側の河岸段丘端部である。調査区周辺は開墾により水田となっているが、今回の調査区は畑地で残っており、開墾の影響は軽微であると思われる。

調査は、住宅建設及びそれに伴う工事で影響を受ける部分について行うこととし、まず遺構の範囲を確定するためにカ所の試掘区を設定した。



第21図　ＳＫ－０１実測図
（１：６０）

2．平成11年度調査

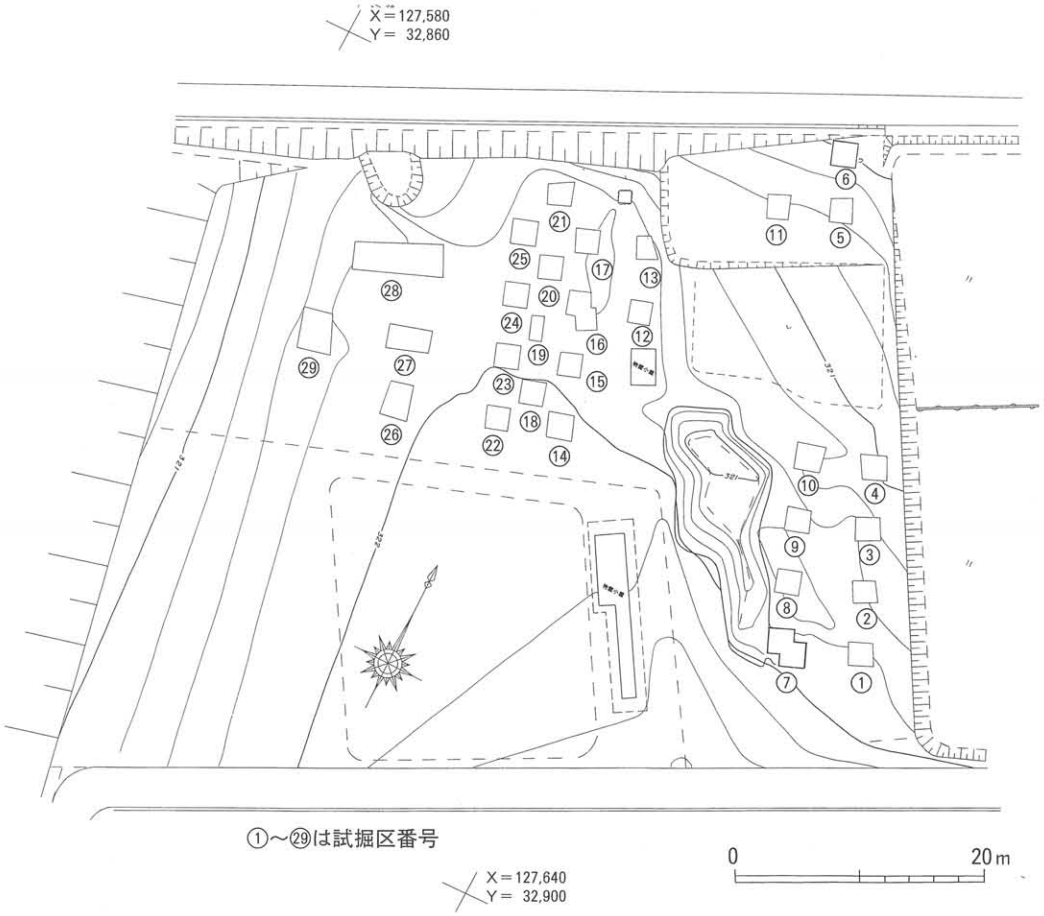
住宅建設予定部分を中心に24カ所の試掘区を設定した。試掘区内から数点の土器が出土したほか、第試掘区で土坑を検出した。

遺構

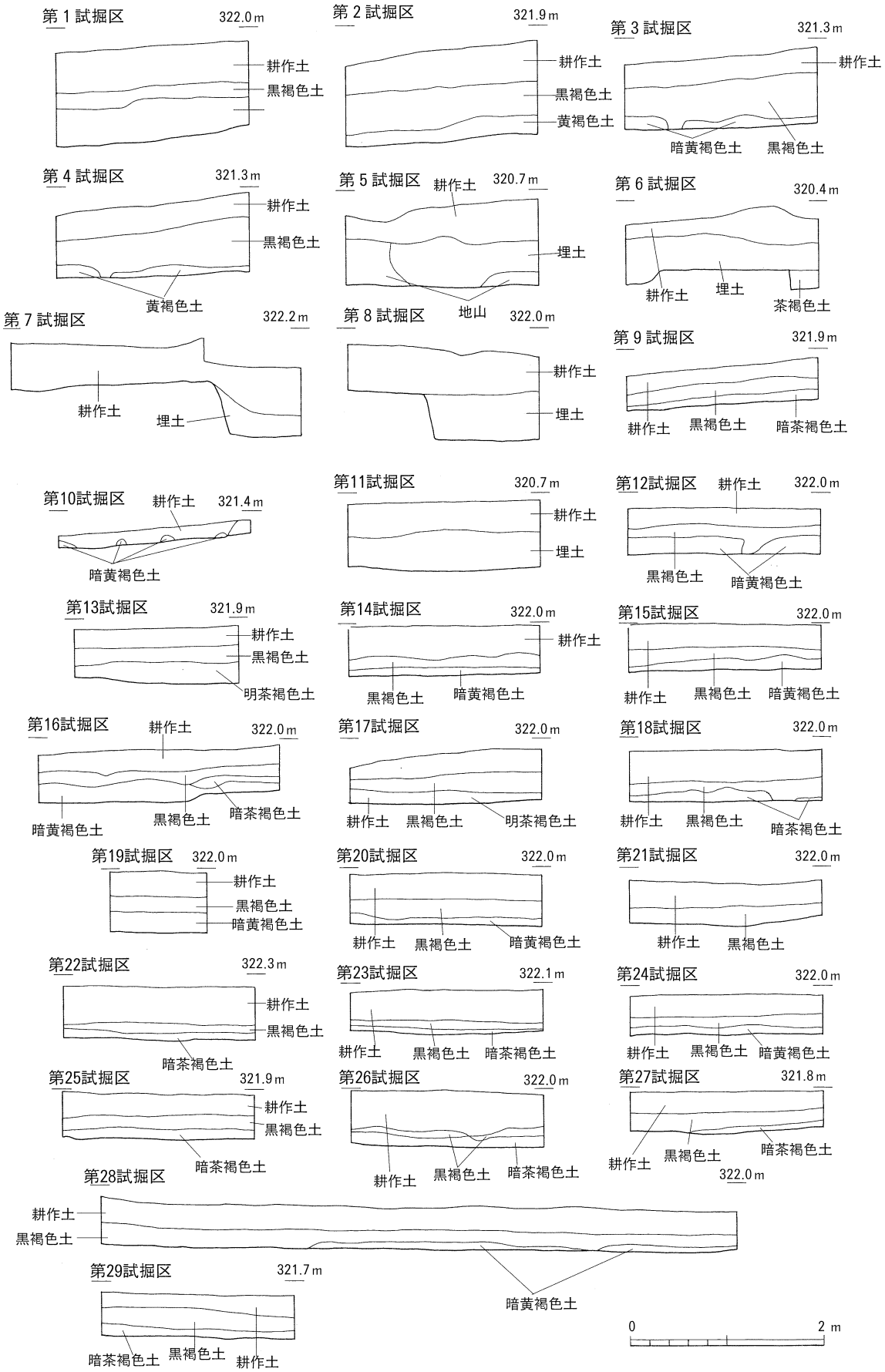
a．土坑

SK-01（第21図、図版第17ｃ・18ａ）

直径0.9m、深さ0.66mのほぼ円形を呈する土坑である。遺物の出土はなく、性格は不明である。



第22図　長尾原遺跡地形測量図・試掘区配置図



第23図　長尾原遺跡試掘区土層図

第１表　平成10年度瑞穂町大字和田狼原詳細分布調査出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Ｙ１	3	1	弥生土器	甕	14.4	残6.8		良好	２mm大の砂粒含む	にぶい褐	にぶい褐	ナデ 刷毛目

第２表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（１）

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Ｙ１	11	10	弥生土器	不明			残8.3	良好	密	浅黄	浅黄	斜行刺突文櫛歯状工具による施文 ナデの後一部磨き
Ｙ２	11	10	弥生土器	高坏			残2.5	良好	密	浅黄橙	浅黄橙	ナデ
Ｙ３	11	10	弥生土器	甕	13.6		残3.2	良好	１mm大の砂粒含む	灰褐	灰褐	３条の凹線 ナデ
Ｙ４	11	10	弥生土器	甕	13.2		残2.3	良好	１mm大の砂粒含む	にぶい橙	にぶい橙	ナデ ヘラ削り
Ｙ５	11	10	弥生土器	甕	16.8		残2.7	ややあまい	１mm大の砂粒含む	橙	橙	３条の凹線 ナデ
Ｙ６	11	10	弥生土器	甕	15.4		残2.5	ややあまい	１mm大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	１条の凹線 刺突文ナデ
Ｙ７	11	10	弥生土器	甕	16.0		残4.5	良好	密	にぶい黄橙	灰白	２条の凹線ナデ 刺突文削り
Ｙ８	11	10	弥生土器	甕	25.0		残4.8	良好	３mm大の砂粒含む	橙橙		２条の凹線 ナデ波状文
Ｙ９	11	10	弥生土器	甕	10.4		残7.0	良好	１mm大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい橙	ナデヘラミガキ ヘラ削り
Ｙ10	11	10	弥生土器	甕	14.8		残1.7	良好	１mm大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	３状の沈線ナデ ミガキ
Ｙ11	11	10	弥生土器	甕	18.2		残3.2	良好	密	明黄褐	明黄褐	２条の沈線ナデ ヘラ削り
Ｙ12	11	10	弥生土器	甕	22.6		残2.8	ややあまい	１mm大の砂粒含む	浅黄	浅黄	３条の凹線 ナデ
Ｙ13	11	10	弥生土器	甕	19.6		残4.9	良好	密	灰黄褐	浅黄橙	２条の凹線ナデ 刺突文
Ｙ14	11	10	弥生土器	甕	21.0		残7.3	良好	２mm大の砂粒含む	灰黄	灰黄	２条の凹線ナデ 斜行刺突文
Ｙ15	11	10	弥生土器	甕	18.0		残3.3	ややあまい	１mm大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	２条の凹線
Ｙ16	11	10	弥生土器	甕	17.4		残5.0	ややあまい	１mm大の砂粒含む	淡黄橙橙	淡黄	２条の凹線
Ｙ17	11	10	弥生土器	甕	15.2		残4.1	良好	１mm大の砂粒含む	淡黄	淡黄	２条の凹線ナデ 刺突ヘラ削り
Ｙ18	11	10	弥生土器	甕	20.2		残6.5	良好	１mm大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	２条の凹線ナデ 刺突文ヘラ削り
Ｙ19	11	10	弥生土器	甕	17.0		残1.8	良好	２mm大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ

第３表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（２）

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Ｙ20	11	10	弥生土器	甕	16.6		残3.4	あまい	３㎜大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄	４条の沈線ナデ斜行刺突文
Ｙ21	12	11	弥生土器	鉢	13.6		残6.5	良好	２㎜大の砂粒含む	にぶい橙	浅黄橙	３条の沈線ナデ斜行刺突文
Ｙ22	12	11	弥生土器	甕	23.2		残2.8	良好	２㎜大の砂粒含む	灰黄褐	灰黄褐	５条の凹線ナデ
Ｙ23	12	11	弥生土器	甕	22.0		残3.4	ややあまい	２㎜大の砂粒含む	黄橙	黄橙	６条の沈線ナデ
Ｙ24	12	11	弥生土器	甕	21.0		残5.0	良好	１㎜大の砂粒含む	にぶい橙	にぶい橙	２条の凹線ナデ斜行刺突文削り
Ｙ25	12	11	弥生土器	甕	16.2		残6.1	ややあまい	２㎜大の砂粒含む	にぶい橙		ナデヘラ削り
Ｙ26	12	11	弥生土器	甕	22.8		残5.7	良好	３㎜大の砂粒含む	にぶい橙	にぶい橙	５条の凹線ナデ刺突文ヘラ削り
Ｙ27	12	11	弥生土器	甕	21.0		残2.6	良好	１㎜大の砂粒含む	にぶい橙	浅黄橙	３条の凹線ナデ
Ｙ28	12	11	弥生土器	甕	13.8		残4.2	良好	３㎜大の砂粒含む	にぶい橙黄橙	にぶいナデ	波状文
Ｙ29	12	11	弥生土器	甕	18.4		残5.3	良好	２㎜大の砂粒含む	橙	にぶい橙	櫛歯状工具による施文ナデヘラ削り
Ｙ30	12	11	弥生土器	甕	26.4		残3.5	良好	３㎜大の砂粒含む	明黄褐橙		４条の凹線ナデ
Ｙ31	12	11	弥生土器	器台	14.8		残3.2	ややあまい	２㎜大の砂粒含む	にぶい橙	にぶい橙	櫛歯状工具による施文ナデ
Ｙ32	12	11	弥生土器	甕	19.6		残3.5	良好	１㎜大の砂粒含む	橙	にぶい黄橙	６状の沈線ナデ
Ｙ33	12	11	弥生土器	器台	18.0		残2.8	良好	１㎜大の砂粒含む	橙橙		櫛歯状工具による施文ナデ
Ｙ34	12	11	弥生土器	壷	20.0		残25.5	良好	密	浅黄橙	褐灰	櫛歯状工具による施文ナデヘラ削り
Ｙ35	12	12	弥生土器	底部		2.0	残2.2	良好	１㎜大の砂粒含む	橙灰褐	赤灰	ヘラ削り
Ｙ36	12	12	弥生土器	底部		4.6	残2.0	良好	１㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	浅黄橙	不明
Ｙ37	12	12	弥生土器	底部		3.2	残2.9	良好	１㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	黒褐	刷毛目
Ｙ38	12	12	弥生土器	底部		6.4	残2.1	良好	１㎜大の砂粒含む	浅黄橙にぶい黄橙	浅黄橙にぶい黄橙	ナデ
Ｙ39	12	12	弥生土器	底部		5.2	残3.2	良好	密	にぶい黄橙	褐灰	不明
Ｙ40	12	12	弥生土器	底部		5.8	残5.3	ややあまい	３㎜大の砂粒含む	橙明褐灰	褐灰	不明
Ｙ41	12	12	弥生土器	底部		4.6	残4.0	良好	１㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	浅黄橙	不明

第４表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（３）

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Ｙ42	13	12	弥生土器	蓋	直径10.8		1.5	良好	1㎜大の砂粒含む	黒褐	黒褐	ナデ
Ｙ43	13	12	弥生土器	不明	8.4		残2.8	良好	1㎜大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	ナデ
Ｙ44	16	13	弥生土器	甕	14.4		残2.1	良好	密	にぶい黄橙	にぶい黄橙	沈線文刺突文ナデ
Ｙ45	16	13	弥生土器	甕	13.0		残3.3	良好	2㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	３条の凹線文刺突文ナデ
Ｙ46	16	13	弥生土器	甕	15.4		残4.3	ややあまい	2㎜大の砂粒含む	にぶい橙褐灰	明黄褐	３条の凹線文刺突文ナデ
Ｙ47	16	13	弥生土器	甕	16.0		残2.6	ややあまい	1㎜大の砂粒含む	浅黄	浅黄	２条の凹線ナデ
Ｙ48	16	13	弥生土器	甕	23.2		残3.4	ややあまい	2㎜大の砂粒含む	橙黄橙		３条の凹線ナデ刺突文ヘラ削り
Ｙ49	16	13	弥生土器	甕	18.5		残3.2	ややあまい	密	灰白	褐灰	１条の凹線ナデヘラ削り
Ｙ50	16	13	弥生土器	甕	15.8		残4.7	良好	1㎜大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	ナデ刺突文
Ｙ51	16	13	弥生土器	甕	18.8		残2.0	ややあまい	2㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２条の凹線ナデ
Ｙ52	16	13	弥生土器	甕	24.8		残5.1	良好	3㎜大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	２条の凹線ナデ刺突文削り
Ｙ53	16	13	弥生土器	鉢	26.0		残7.2	良好	2㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２条の沈線ナデ刺突文ヘラ削り
Ｙ54	17	14	弥生土器	甕	17.0		残14.2	良好	1㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	浅黄橙	２条の凹線ナデヘラ削り刷毛目
Ｙ55	17	14	弥生土器	甕	14.8		残3.2	ややあまい	2㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	２条の沈線ナデ刺突文
Ｙ56	17	14	弥生土器	甕	26.4		残4.2	良好	密	にぶい黄橙	灰黄褐黄	２条の凹線ナデ
Ｙ57	17	14	弥生土器	甕	21.6		残3.0	ややあまい	密	にぶい橙	にぶい橙	１条の凹線ナデ刺突文
Ｙ58	17	14	弥生土器	甕	25.0		残4.8	良好	3㎜大の砂粒含む	にぶい黄橙橙橙	にぶい黄橙波状文	２条の凹線ナデ
Ｙ59	17	14	弥生土器	甕	15.2		残4.1	良好	1㎜大の砂粒含む	淡黄	淡黄	２状の凹線ナデ刺突文ヘラ削り
Ｙ60	17	14	弥生土器	甕	15.8		残3.6	良好	1㎜大の砂粒含む	浅黄橙	浅黄橙	ナデ刺突文
Ｙ61	17	14	弥生土器	甕	22.4		残5.2	ややあまい	3㎜大の砂粒含む	橙橙	刺突文	
Ｙ62	17	14	弥生土器	甕	11.8		残2.1	良好	密	灰褐黒褐	灰黄	櫛歯状工具による波状文ナデ
Ｙ63	17	14	弥生土器	甕	18.6		残5.0	良好	3㎜大の砂粒含む	赤褐	赤褐	櫛歯状工具による施文ナデ

第５表　平成10年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表（４）

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Y64	17	14	弥生土器	甕	13.0		残 2.4	良好	密	黄褐	にぶい橙	櫛歯状工具による施文 ナデ
Y65	17	14	弥生土器	甕	16.0		残 3.4	良好	密	褐灰 橙	褐灰	櫛歯状工具による施文 ナデヘラ削り
Y66	17	14	弥生土器	甕	9.8		残 3.3	良好	1mm大の砂粒含む	灰褐	にぶい黄橙	櫛歯状工具による波状文 １条の沈線ナデ
Y67	17	15	弥生土器	甕	17.0		残 3.0	良好	1mm大の砂粒含む	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ
Y68	17	15	弥生土器	甕	19.4		残 6.7	ややあまい	2mm大の砂粒含む	橙	橙	櫛歯状工具による波状文 ナデ
Y69	17	15	弥生土器	底部		2.2	残 2.1	ややあまい	1mm大の砂粒含む	灰黄褐	灰白	不明
Y70	17	15	弥生土器	底部		3.0	残 2.2	良好	1mm大の砂粒含む	褐灰	黒褐	不明
Y71	17	15	弥生土器	底部		3.6	残 1.8	良好	密	にぶい黄橙	にぶい黄橙	不明
Y72	17	15	弥生土器	底部		4.0	残 2.7	良好	2mm大の砂粒含む	にぶい黄橙	灰褐	ヘラ磨きナデ ヘラ削り
Y73	17	15	弥生土器	底部		7.0	残 2.4	良好	2mm大の砂粒含む	にぶい赤褐	灰赤	磨き ナデ
Y74	17	15	弥生土器	底部		7.4	残 1.3	良好	密	浅黄橙	浅黄橙	ナデ
Y75	17	15	弥生土器	底部		8.2	残 1.7	良好	1mm大の砂粒含む	浅黄橙	褐灰	不明
Y76	17	15	弥生土器	碗	10.4		残 3.8	良好	1mm大の砂粒含む	赤灰	橙	不明
H１	13	12	土師器	甕	18.6		残 5.4	良好	4mm大の砂粒含む	橙橙		ナデ(刷毛目痕残る) ヘラ磨きヘラ削り
H２	15	12	土師器	甕	21.2		残 18.5	良好	密	淡黄橙 黄橙	淡黄橙 黄橙	平行叩き目 ナデ
SU1	15	13	須恵器	甕	11.2		残 3.9	良好	密	緑黒 浅黄	緑黒	ナデ

第６表　平成11年度順庵原Ｂ遺跡出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	調整等
Ｊ１	18	16	縄文土器	不明			残 2.4	良好	2mm大の砂粒含む	灰褐	灰褐	条痕文
Ｙ１	18	16	弥生土器	口縁部			残 3.5	良好	1mm大の砂粒含む	黒褐	黒褐	８条の沈線 刺突文

Ⅳ．まとめ

1．瑞穂町大字和田狼原の遺跡詳細分布調査について

今回の調査は瑞穂町大字和田地内に所在する通称狼原の開発について検討するにあたり、遺跡の存在が予測されたことから、その範囲を確定するために行ったものである。

調査区は出羽川南部の河岸段丘上に位置し、周囲で川ノ免遺跡や滑遺跡など、小規模な集落跡が確認されている。そのため、本調査区でもかなりの遺構が検出されると予測された。

しかし、調査区内は戦後の開墾により耕地化され、造林用苗木の苗圃として使用されていたため、かなり地形が変わっており、旧地形が残っているのはわずかな部分であった。

旧地形が残っている部分についても、少量の遺物は出土したものの、古代の遺構を検出することはできなかった。

これらのことを総合すると、かつては調査区内に遺構が存在していたものの、戦後の開墾によりそのすべてが破壊され、現在は調査区内に遺構は存在しないと思われる。

2．順庵原Ｂ遺跡の発掘調査について

平成10年度調査は住宅建設予定地と、墓地建設予定地の２カ所について行った。このうち住宅建設予定地については古代の遺構は確認できなかった。

墓地建設予定地については、わずかな面積ながら竪穴住居跡２棟を検出したほか、弥生土器を中心として多くの遺物を収集することができた。

竪穴住居跡のうち１棟は順庵原１号墓の約20m南側に位置し、直径約９ｍという本町周辺では最大規模のものであった。住居跡内から出土した土器から判断すると、この遺構と順庵原１号墓はほぼ同時代、弥生時代後期前半のものであると考えられる。

四隅突出型墳丘墓の近くで大型の住居跡が確認されている例は、本遺跡以外では広島県千代田町の歳ノ神遺跡[1]と鳥取県淀江町の洞ノ原遺跡[2]がある。残念ながら四隅突出型墳丘墓と大型住居の関係については明らかになっていないが、今後の調査例の増加が望まれる。

竪穴住居跡の他の１棟は出土した土師器の特徴から判断して奈良時代のものと思われる。本遺跡周辺では平成６年度と７年度に発掘調査が行われているが、検出された遺構は弥生時代以前ものばかりであり、発掘調査によって奈良時代の遺構が確認されたのは今回が初めてである。順庵原Ｂ遺跡において、須恵器が表採されているのは、この住居跡から北側にかけてであり、遺跡の南側に弥生時代を中心とする集落跡、北側に奈良時代を中心とする集落跡があったようである。

平成11年度調査は、以前から四隅突出型墳丘墓存在の可能性が指摘されていた順庵原１号墓から谷を挟んだ南側の尾根上で行った調査である。調査区内にまず9カ所の試掘区を設定した。

調査の結果、尾根の斜面部に設定した試掘区で河原石を検出した。しかし、検出した石は人為的なものではなく、四隅突出型墳丘墓の貼り石と考えることはできなかった。また、尾根上の平坦面においても主体部は検出できなかった。さらに、出土遺物も縄文土器片1点と、弥生時代中期の土器片1点のみであった。これらのことを総合すると、今回調査を行った尾根上には、四隅突出型墳丘墓は存在しないと考えられる。

3．長尾原遺跡の発掘調査について

今回の調査は、住宅建設予定地内において、遺構の有無を確認するために行われたものである。調査はまず29カ所の試掘区を設定し、遺構の有無を確認した。試掘区内から出土した遺物は、数点の土器片のみであった。遺構としては、土坑を１基検出したが、性格は不明である。

試掘区の遺構検出状況や遺物出土状況からから考えて、住宅建設予定地全面の発掘は必要ないと判断し、試掘区内の調査のみとした。

註

(1)（財）広島県埋蔵文化財調査センター「歳ノ神遺跡」『歳ノ神遺跡　中出勝負峠墳墓群』1986年。

(2) 淀江町教育委員会　大山町教育委員会『洞ノ原遺跡（墳墓群）発掘調査概要説明書』1997年

図　　版

図版第１

ａ．瑞穂町大字狼原遠景
（南西から）

ｂ．同　近景（西から）

Ｃ．出土遺物

図版第 2

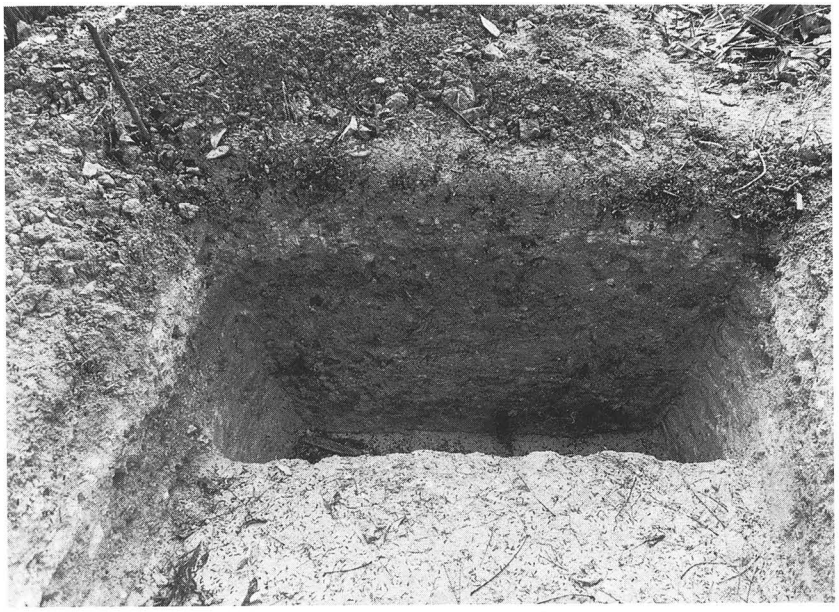
a．SK－01 検出状況
（北から）

b．同 断面土層（南から）

c．同 完掘状況（同）

図版第３

ａ．第２試掘区土層
（南から）



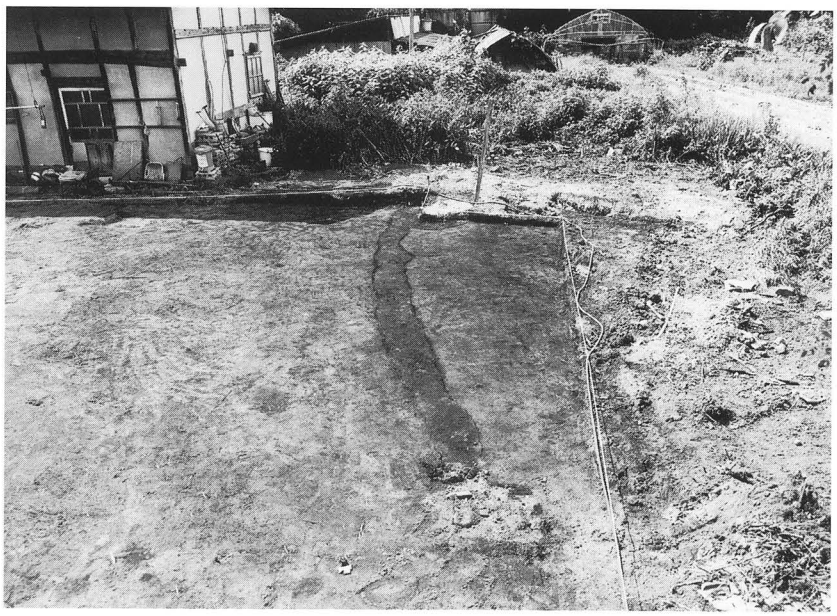
ｂ．第18試掘区土層（同）

ｃ．調査の様子

図版第４

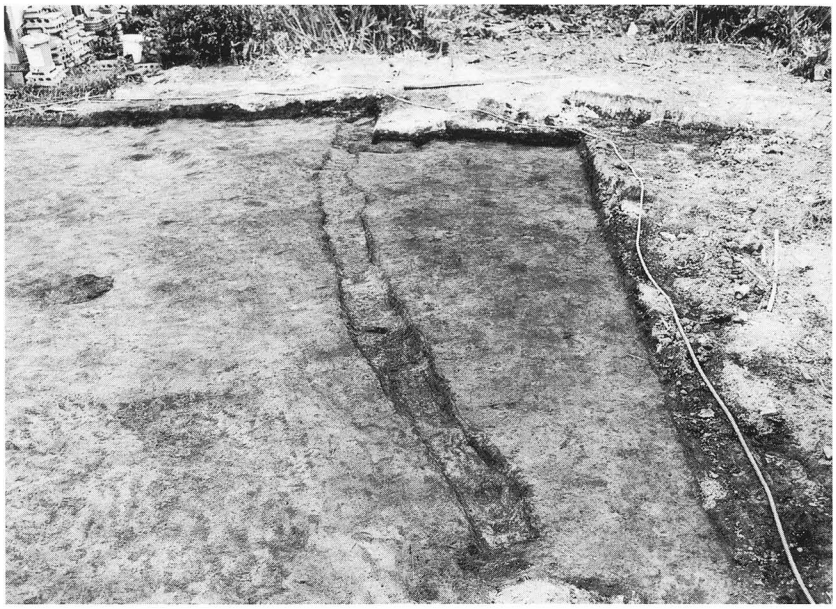
ａ．順庵原Ｂ遺跡遠景
（南西から）

ｂ．同 近景（北から）



ｃ．ＳＤ－01 検出状況
（東から）

図版第５



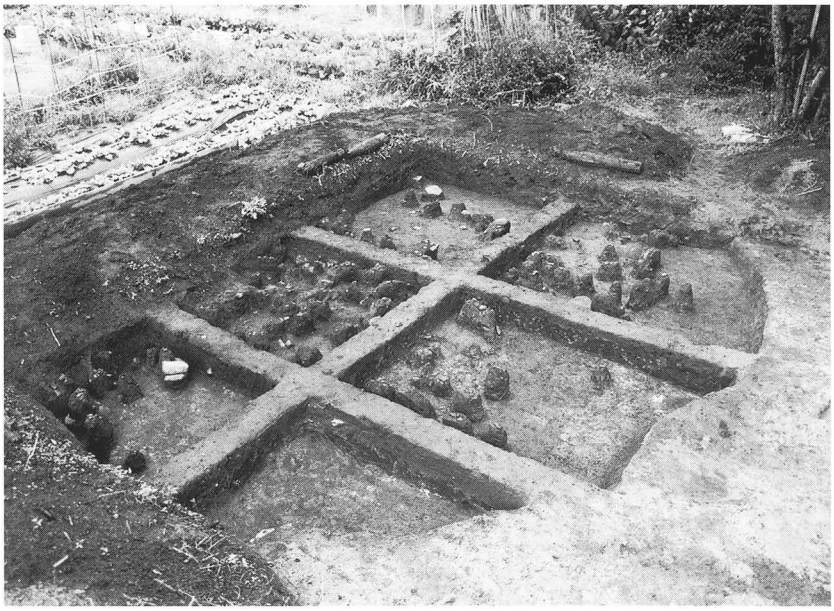
ａ．SD－01 完掘状況
（東から）

ｂ．SA－01 完掘状況
（同）

ｃ．SI－01 検出状況
（南東から）

図版第 6

a．SI－01 土層断面
（北から）



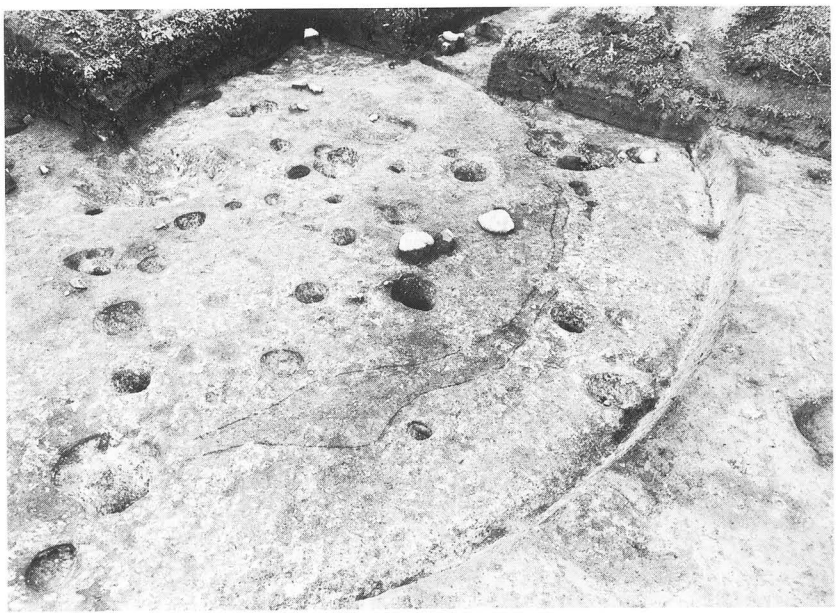
b．同 遺物出土状況（同）

c．中央SK 検出状況
（北西から）

図版第７

ａ．中央SK 断面土層
（北から）

ｂ．同 完掘状況
（北西から）



ｃ．SI－01a
壁溝検出状況
（北から）

図版第８

ａ．SI－01 完掘状況
（北から）

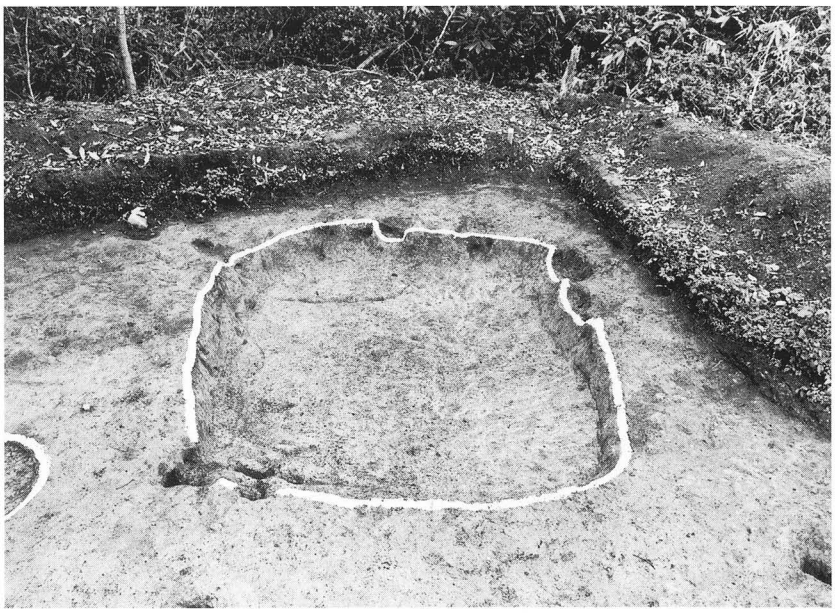
ｂ．SI－02・SI－01
検出状況（北西から）

ｃ．同 土層（北東から）

図版第９

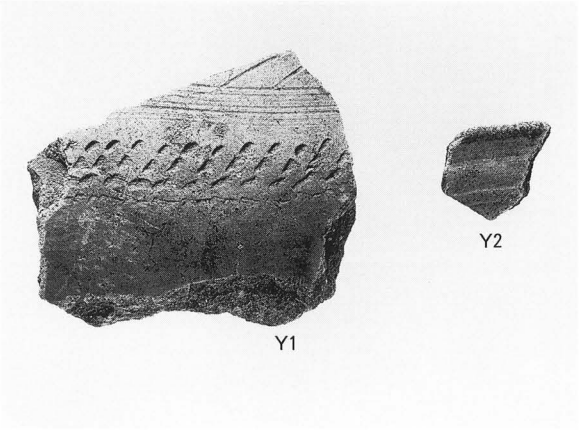
a．SI－02 遺物出土状況
（南から）

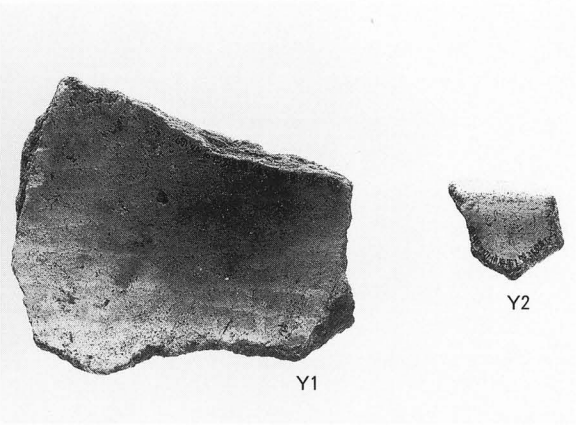
b．同 土師器出土状況



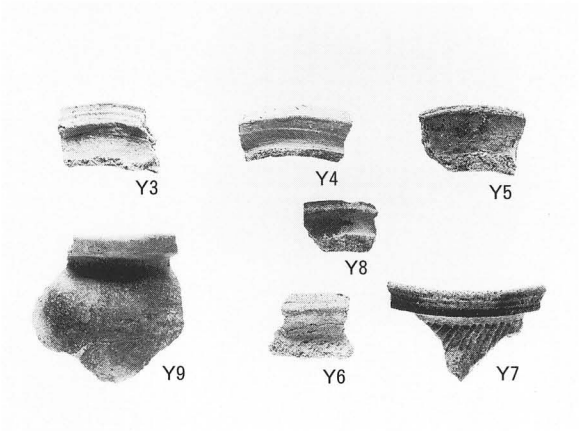
c．同 完掘状況（東から）

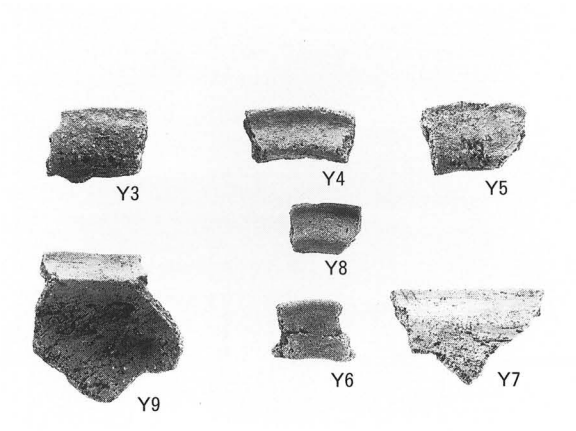
図版第10



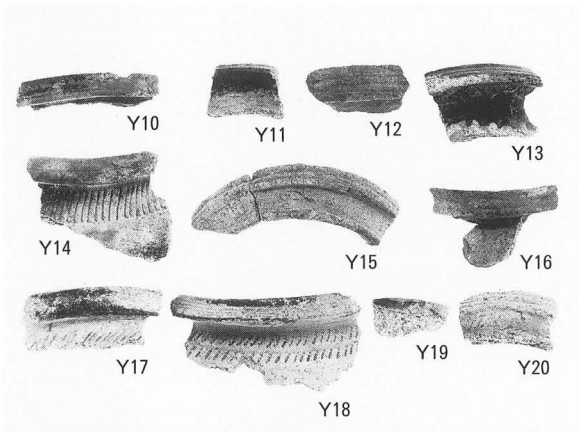


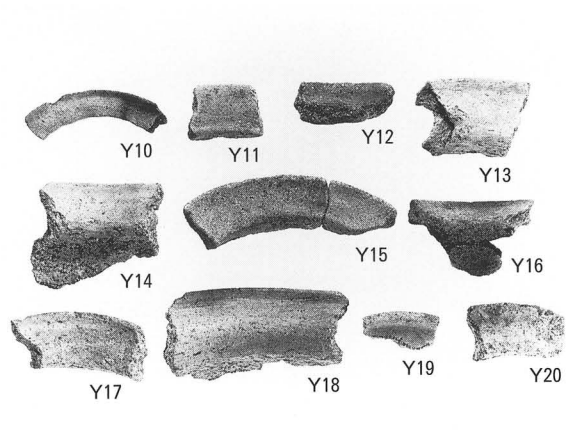
a．SI－01 出土遺物





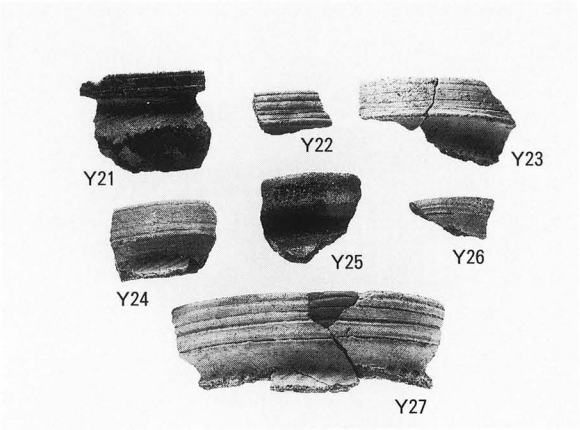
b．　同

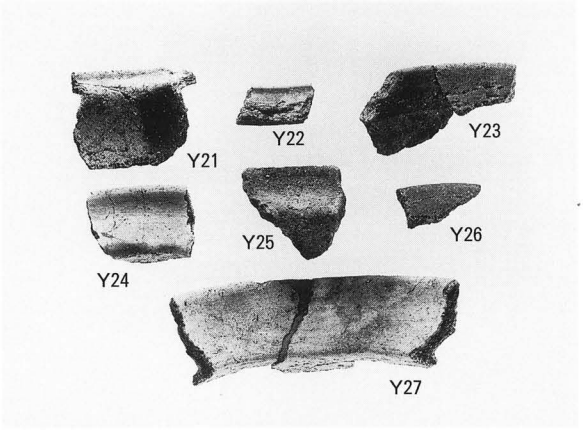




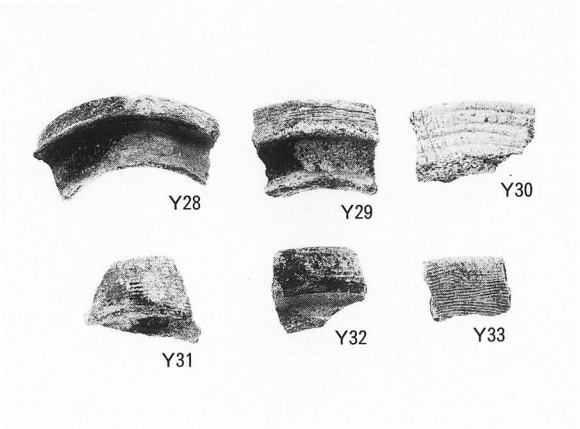
c．　同

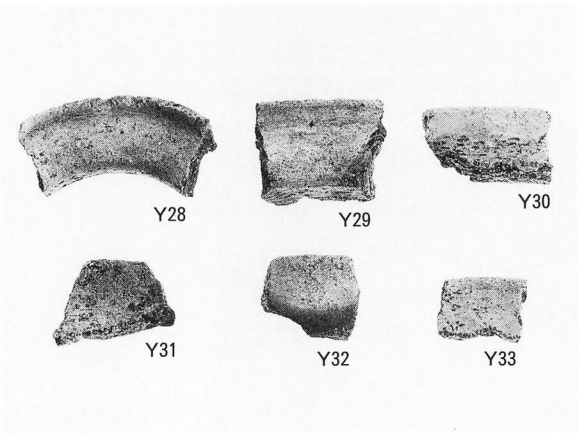
図版第11





a．SI－01 出土遺物

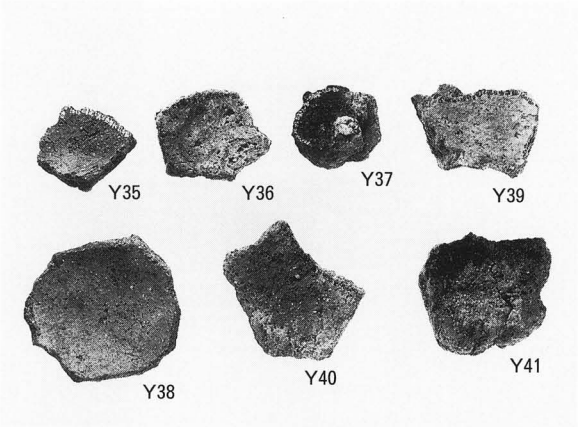


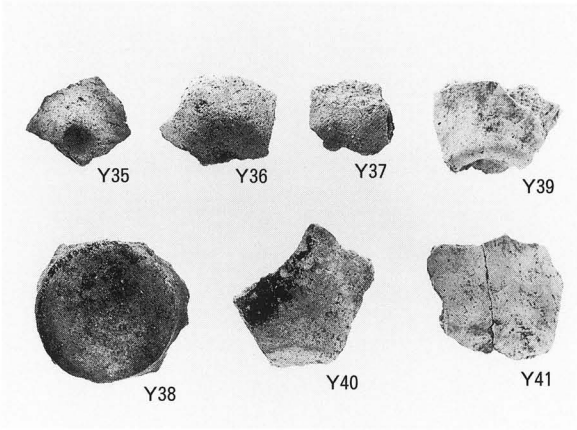


b．　同

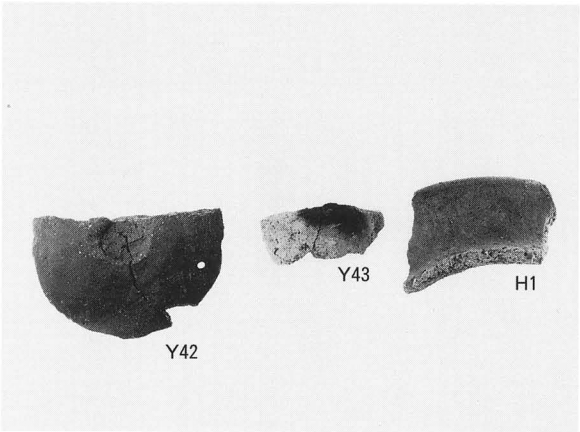
c．　同

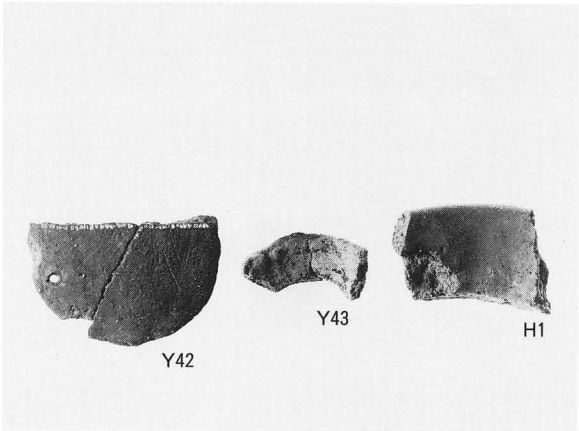
図版第12





a．SI－01 出土遺物

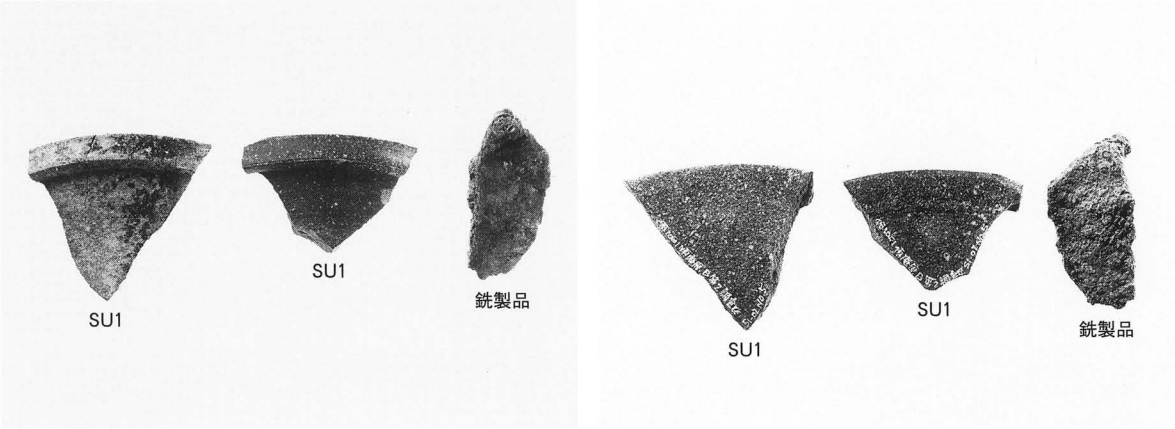




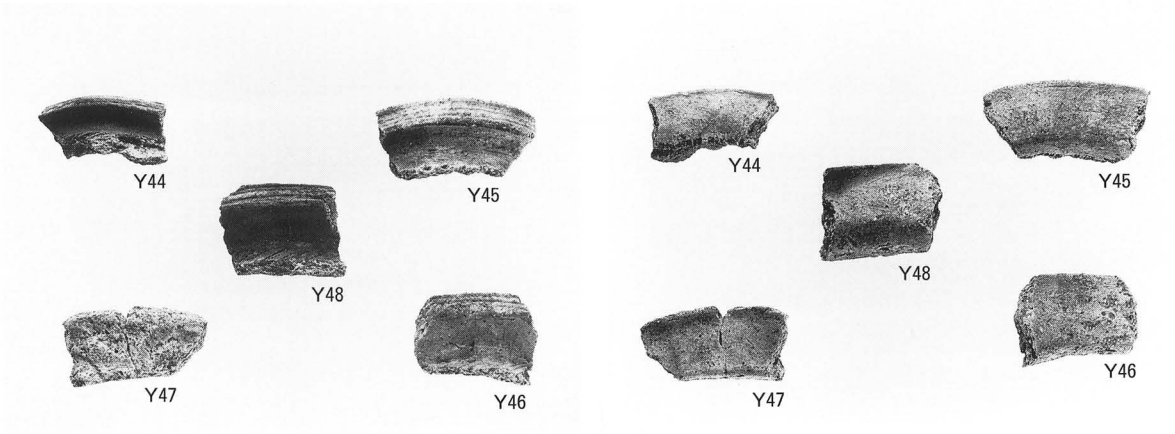
b．　同

c．SI－02 出土遺物

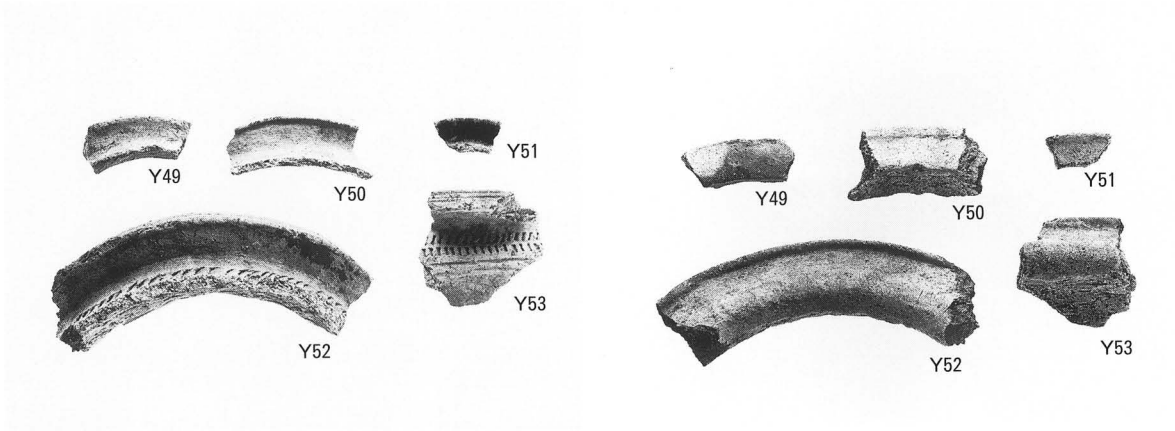
図版第13



a．SI－02 出土遺物

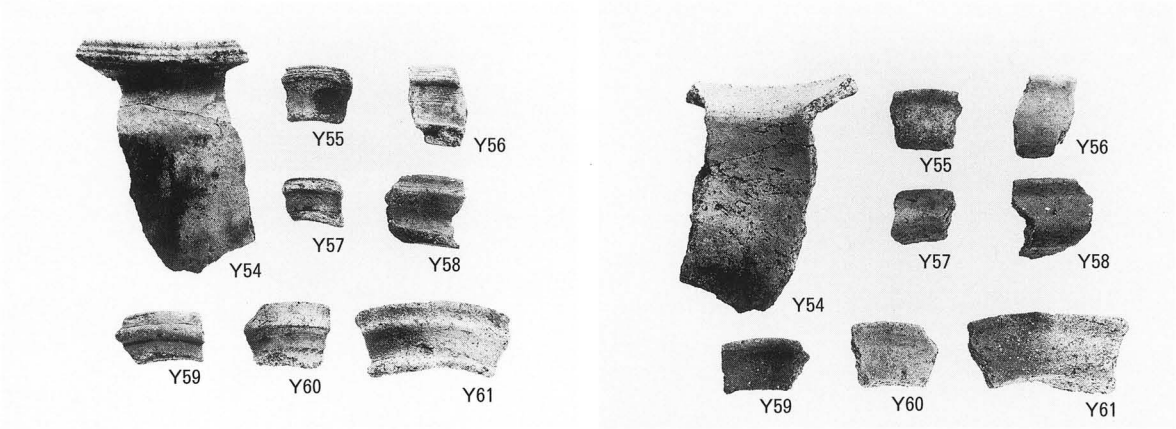


b．遺構に伴わない出土遺物

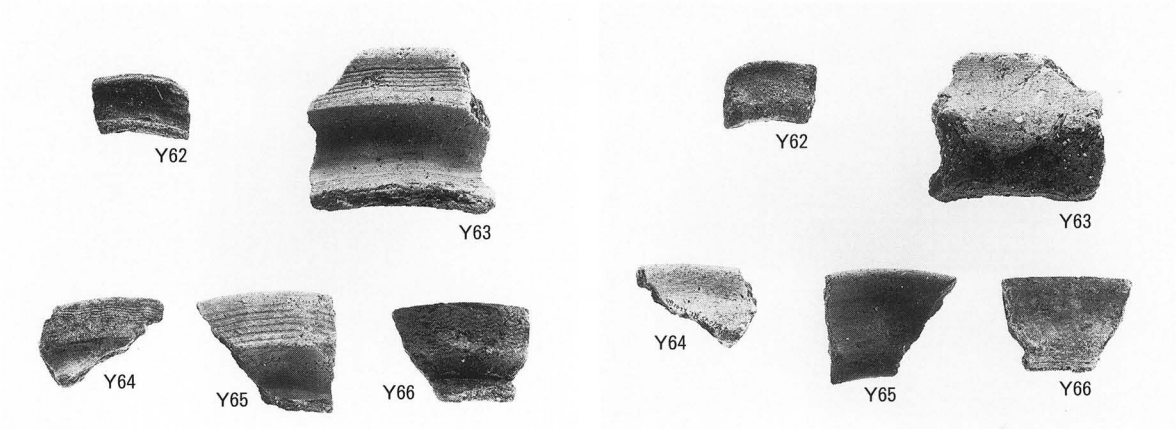


c．　同

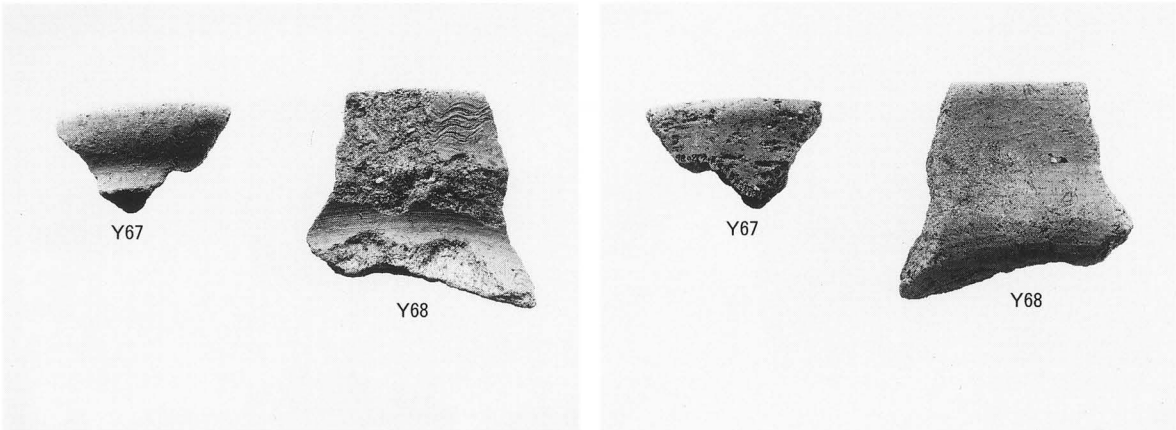
図版第14



a．遺構に伴わない出土遺物

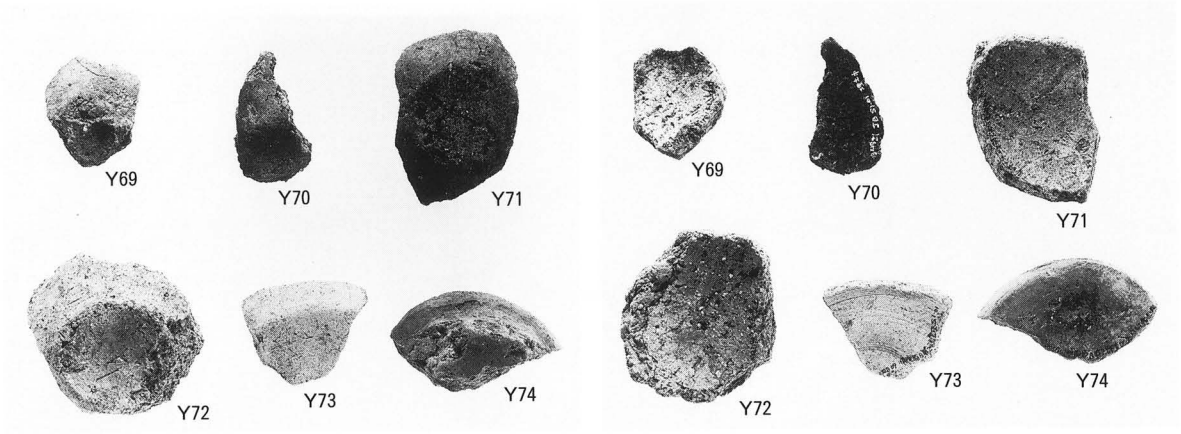


b．　同

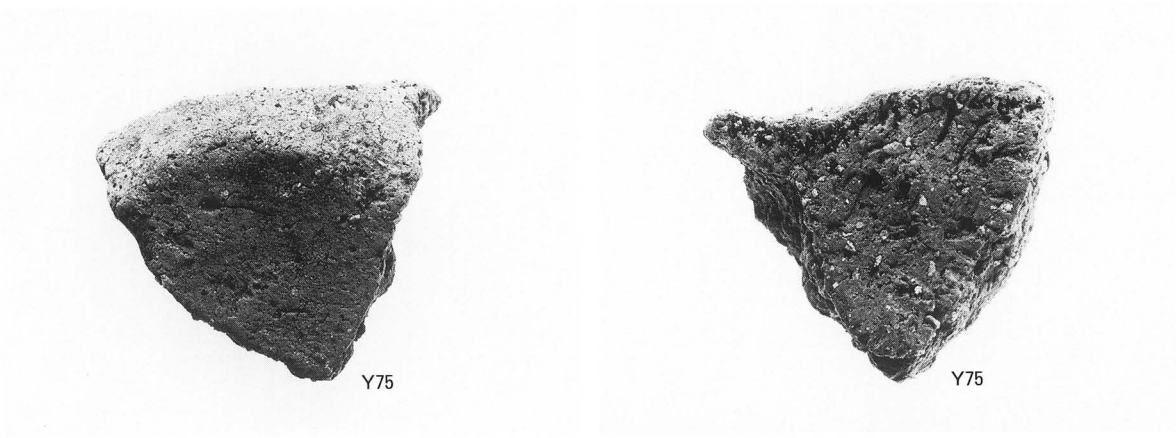


c．　同

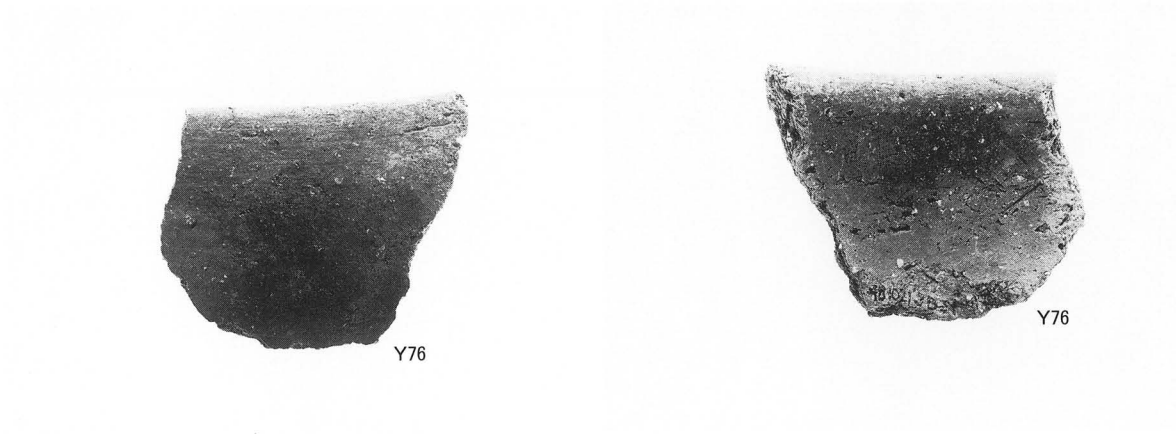
図版第15



a．遺構に伴わない出土遺物

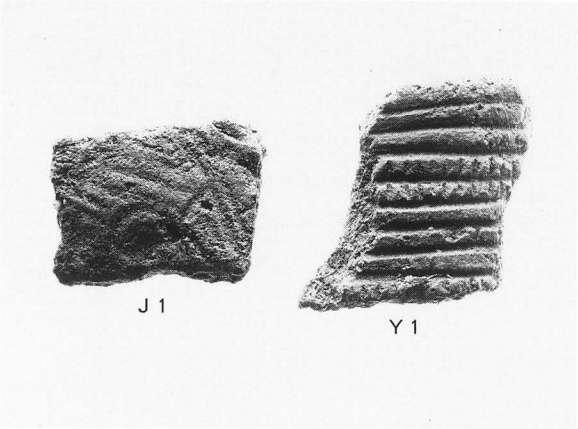


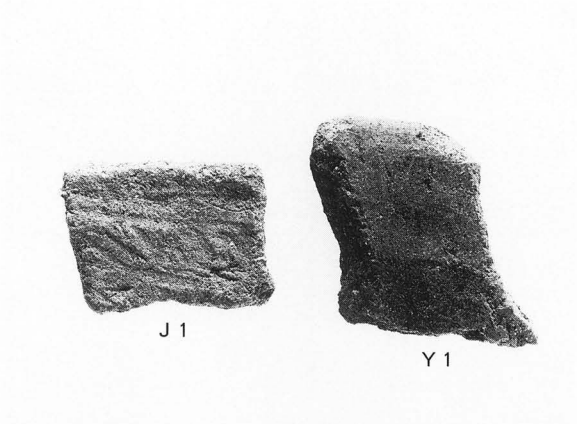
b．　同



c．　同

図版第16



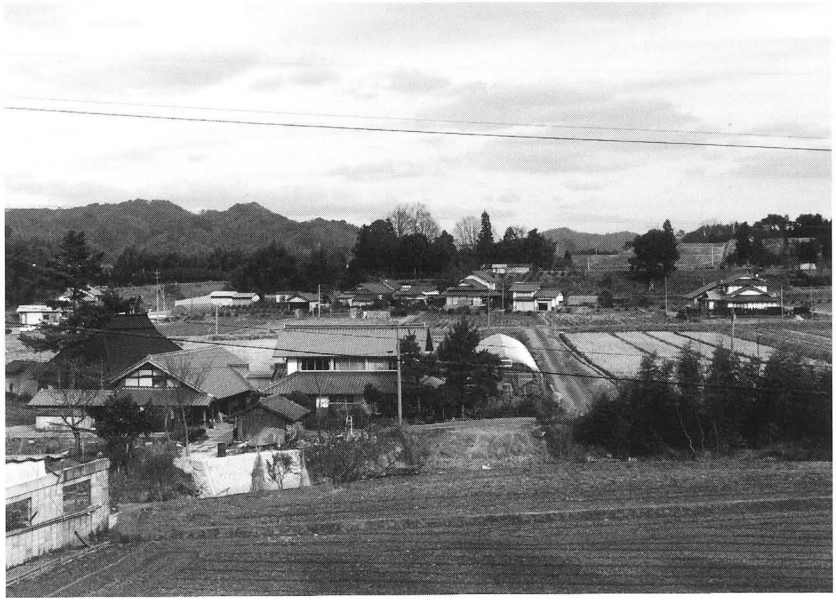


a．平成11年度調査出土遺物

b．平成10年度調査説明会の様子

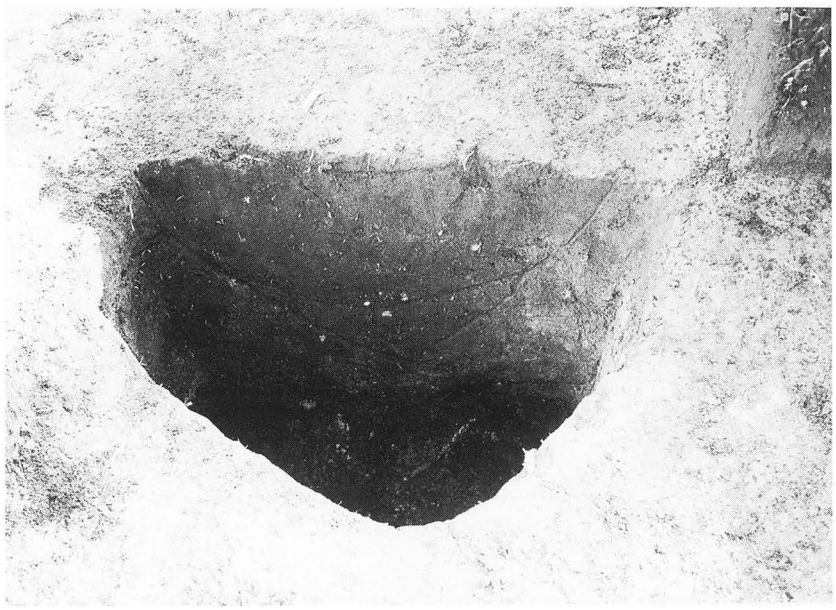
c．　同

図版第17



a．長尾原遺跡遠景
（西から）

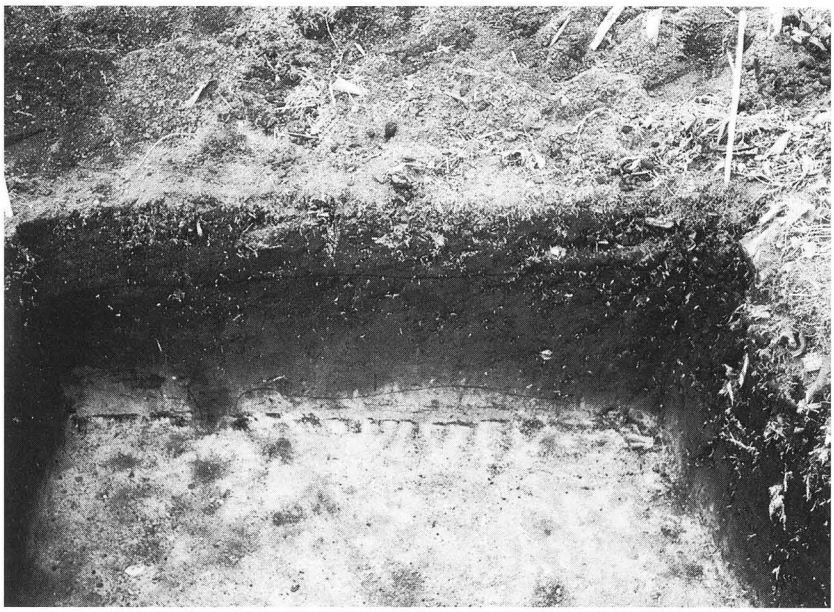
b．同 近景（東から）



c．SK－01 断面土層
（北から）

図版第18

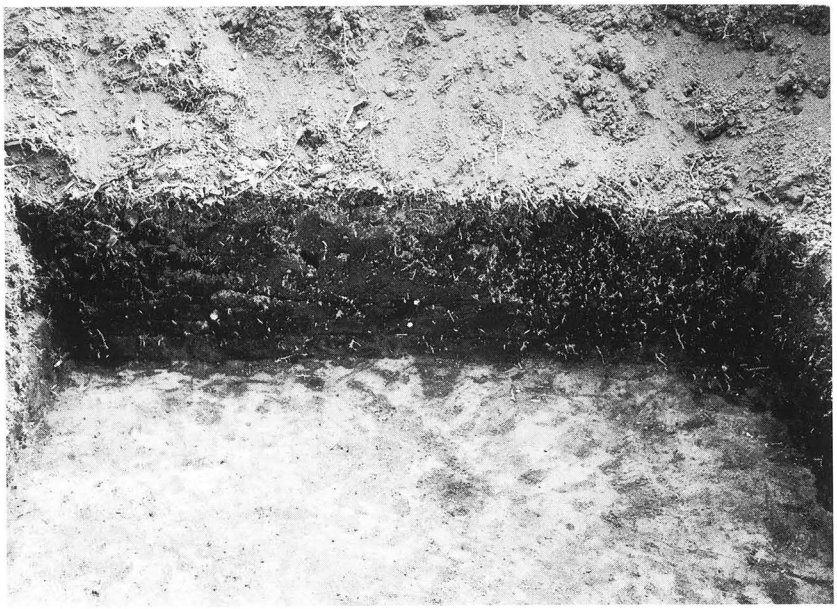
a．SK－01 完掘状況
（北から）



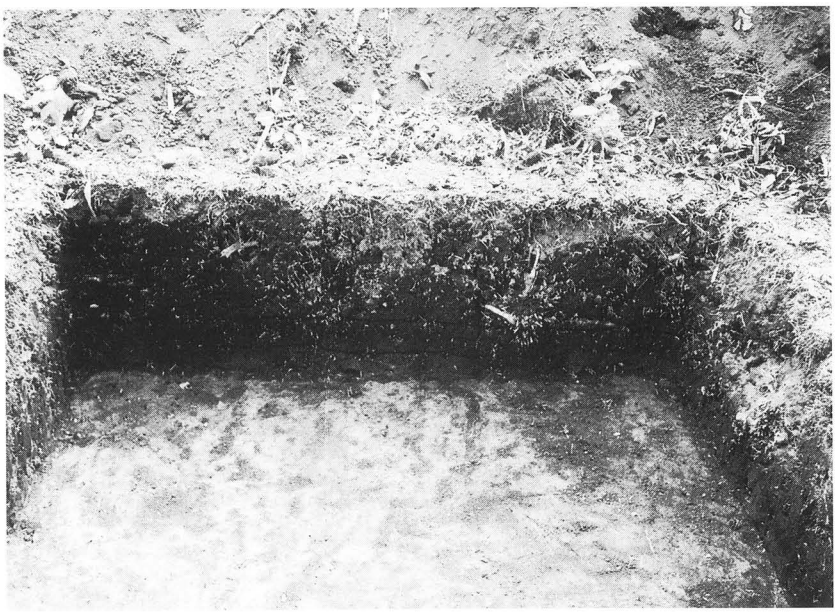
b．第４試掘区土層（同）

c．第10試掘区土層（同）

図版第19



a．第14試掘区土層
（北から）



b．第22試掘区土層（同）

c．調査の様子

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはっくつちょうさとうほうこくしょ
書名	町内遺跡発掘調査等報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 23 集
編著者名	藤田睦弘
編集機関	瑞穂町教育委員会
所在地	〒696-0393 島根県邑智郡瑞穂町大字三日市32番地 〒 0855－83－1121
発行年月日	西暦 2000年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		町村	遺跡番号					
瑞穂町大字和田狼原（みずほちょうおおあざわだおおかんばら）	島根県邑智郡瑞穂町大字和田（しまねけんおおちぐんみずほちょうおおあざわだ）	32445		34度51分25秒	132度33分23秒	19970528～19941130	280	詳細分布調査
順庵原Ｂ遺跡（じゅうなんばらＢいせき）	島根県邑智郡瑞穂町大字上亀谷2178-12外（しまねけんおおちぐんみずほちょうおおあざかみかめだに）			34度50分38秒	132度31分05秒		280	住宅建設 墓地建設
長尾原遺跡（なごおばらいせき）	島根県邑智郡瑞穂町大字下亀谷919-3（しまねけんおおちぐんみずほちょうおおあざしもかめだに）			34度50分57秒	132度31分35秒		130	住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瑞穂町大字和田狼原	散布地	弥生時代	土坑	弥生土器	
順庵原Ｂ遺跡	集落跡	弥生時代 奈良時代	住居跡	弥生土器 土師器 須恵器	直径約8.8～9.0mの住居跡
長尾原遺跡	集落跡	弥生時代	土坑		

平成12年（2000年）３月

島根県邑智郡瑞穂町

町内遺跡発掘調査等報告書

編集・発行　島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

印　　刷　柏村印刷株式会社